

MAX PLEASURE

CROSSLINE

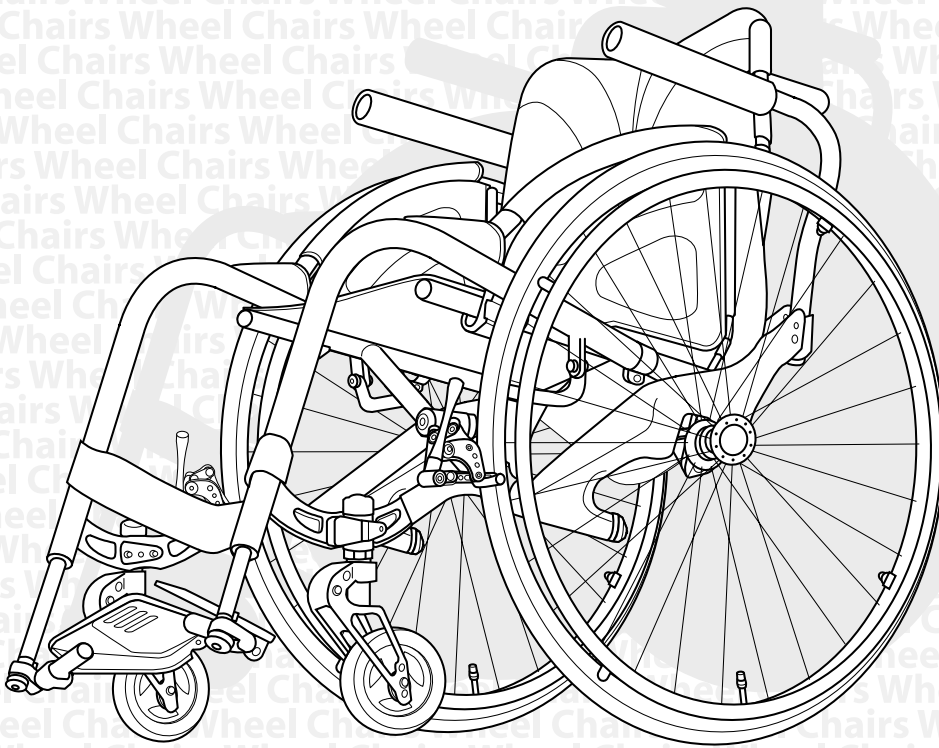
SYNERGY

AIRNESS

α β
ALPHA BETA

取扱説明書

保存用
保証書付



愛の輪
愛のいす







MATSUNAGA





このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意
事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。
そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は改良などによりこの「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または直接弊社までお問い合わせください。

部品一覧表

部品	六角レンチ			
	対辺3mm	対辺4mm	対辺5mm	対辺6mm
機種				
CROSS LINE CL-R	—	1	1	—
CROSS LINE CL-X	—			—
SYNERGY GS-V	—			—
AIRNESS LS-i	—			—
α	—			—
β	1			1

部品	スパナ			取説
	対辺8・10mm	対辺13mm	対辺24mm	
機種				
CROSS LINE CL-R	2	—	2	1
CROSS LINE CL-X	2	—	—	
SYNERGY GS-V	2	—	1	
AIRNESS LS-i	2	—	2	
α	2	—	2	
β	2	1	2	

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない
「禁止」内容です。



この表示は、必ずしていただく
「強制」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- 使用中は駆動輪中央のロックピンを押さないでください。
駆動輪が外れて、転倒・転落事故の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
また、タイヤのパンクの原因となります。
- フットサポートプレート挿し込み部④にすき間がある状態で使用しないでください。(フットサポートP.7、P.10角度の調整の場合)
使用中にフットサポートが外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。
グリップやバックサポートが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。
- ホイールを外した状態で、転倒防止ユニットの車輪を駆動輪代わりにして使用しないでください。
車いすが破損して、転倒・転落事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。
- 車いすを押す時は、スピードを出さないでください。
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。
- バックしながら急停止しないでください。
転倒事故の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 車いすを広げた時、シートパイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。
- ご使用前は、駆動輪が確実に固定されていることを確認してください。
使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすに乗り降りする際は、必ずブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- フットサポート高さ調整後は、高さ調整パイプが確実に固定されていることを確認してください。
使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- フットサポート高さは、地面から50mm以上確保してご使用ください。
路面の凹凸や障害物に引っかかり、転倒・転落事故の原因となります。
- 必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。(セパレートフットサポート、アジャストフットサポートの場合)
フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。
- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。
使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてケガの原因になります。
- 以下の点で、フットサポートの調整角度に注意してください。
 - ・調整角度が大きいと、車いすの折りたたみがしにくくなります。
 - ・調整角度が大きいと、地面との接触の恐れがあります。部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

安全にお使いになるためのご注意

警告

(強制)



必ずして
いただく

- バックサポート高さ調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート角度調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。
- クロスパイプ取付け部Cと、シートサポート取付け部Dの取付け穴[上・中・下]の位置は必ず合わせて、確実にしめてください。(MAX PLEASUREβ、P.11の調整の場合)位置が違くと故障の原因となります。
- 座角度調整後は、確実に固定されていることを確認してください。(MAX PLEASUREβ、P.11の調整の場合)使用中に、クロスフレームが動き、ケガの原因となります。
- 駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。
- ブレーキの調整後は、ブレーキが確実にかかることを確認してください。駐車時にブレーキがかからず、事故の原因となります。
- キャストケースの高さ調整時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。高さ調整後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。
- キャストフォークの穴位置変更時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。穴位置変更後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。
- キャストの角度調整後は、キャスト角度が確実に固定されていることを確認してください。使用中、キャストの角度が変わり、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。
- アジャスタブルキャストケース固定ボルトを外したときは、キャストケースの高さがずれないよう注意してください。車いすが傾いて正常な状態でなくなるため、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 乗り降りの際、介助が必要な方は、必ず介助者が付き添ってください。バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすに人が乗った状態で車いすを持ち上げる時は、声をかけ合って、皆同時にゆっくりと持ちあげていただくようにしてください。持ち上げたとき座面が斜めになり、バランスをくずして、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき、介助者の方は車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、溝にキャストが落ち込まないように必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。車輪が溝にはまって転倒・転落事故の原因となります。
- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。ケガや転倒・転落事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- 車いすを広げる時に、シートパイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプとパイプの間に手や指を挟んでケガをする原因となります。
- フットサポートプレートを後方へ90度以上起こさないでください。(T.S.SⅢのみ)
バネの破損の原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、
車いす用手袋(オプション)をご使用ください。
- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが曲がったりして故障の原因になります。
- 有機溶剤(MEK、アセトン、トリクロロエチレン、塩化メチレン、トルエン、キシレンなど)を含んだ、
油汚れ取りは使用しないでください。
塗膜のつやが消えることがあります。

(強制)



必ずして
いただく

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないように注意してください。
ケガの原因となります。
- フットサポート角度調整後は、自然にフットサポートが跳ね上がることを確認してください。(T.S.SⅢのみ)
車いすの故障の原因となります。
- CL-Rにおいて、車軸ホルダーをスライドさせるため、90度回転させた後は、必ず、元に戻す方向に
90度回転させてください。
さらに90度回さしてしまうと、キャンバー角度が変わってしまいます。
- キャスト輪固定ボルトをしめた後、必ずキャスト輪が回転することを確認してください。
回転しない場合は、回転するまでボルト・ナットをゆるめてください。
- ストレートアームサポートを戻すときは、確実に最後まで戻してください。
使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。
- ストレートアームサポート高さ調整後は、ストレートアームサポートが確実に固定されていることを確認してください。
使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。
- ストレートアームサポートの高さ調整後は、以下の点を確認してください。
 - ・跳ね上げたときに完全に跳ね上がるか、跳ね上げに支障はないか。
 - ・ストレートアームサポートを戻したとき、駆動輪に接触しないか。
接触した場合は、ただちに接触しない高さにしてください。
部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車軸位置を変更された時は、必ずストレートアームサポートの跳ね上げ動作を確認してください。
場合によっては、パイプ等のすき間で指や手などを挟んでケガをする原因になります。
- 転倒防止使用時は、必ずピンが溝にはまって確実にロックされていることを確認してください。
転倒防止機能が働かなくなり、事故の原因となります。
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
ケガの原因となります。

目次

安全にお使いになるためのご注意

各部の名称	3
-------	---

安全にお使いになるための使用方法	5
------------------	---

車いすの広げ方	5
---------	---

車いすの折りたたみ方	5
------------	---

着脱式駆動輪の外し方	5
------------	---

着脱式駆動輪の取付け方	6
-------------	---

ブレーキの使用方法	6
-----------	---

フットサポートの高さ調整	6
--------------	---

フットサポートの使用方法	7
--------------	---

セパレートフットサポート	7
--------------	---

T.S.SⅢ	8
--------	---

アジャストフットサポート	9
--------------	---

バックサポートの高さ調整	10
--------------	----

バックサポートパイプの角度調整	11
-----------------	----

背シートの張り調整	11
-----------	----

デラックスシート	11
----------	----

座角度の調整	12
--------	----

駆動輪のキャンバー角度の調整	12
----------------	----

座高に関わる調整	13
----------	----

後座高に関わる調整	13
-----------	----

駆動輪の位置移動	13
----------	----

サスペンションユニットの位置移動	15
------------------	----

アクスルブラケットの位置移動	15
----------------	----

ハブ取付けプレートの位置移動	16
----------------	----

ブレーキの調整	16
---------	----

前座高に関わる調整	17
-----------	----

キャストケースの高さ調整	17
--------------	----

キャストフォークの穴位置変更	17
----------------	----

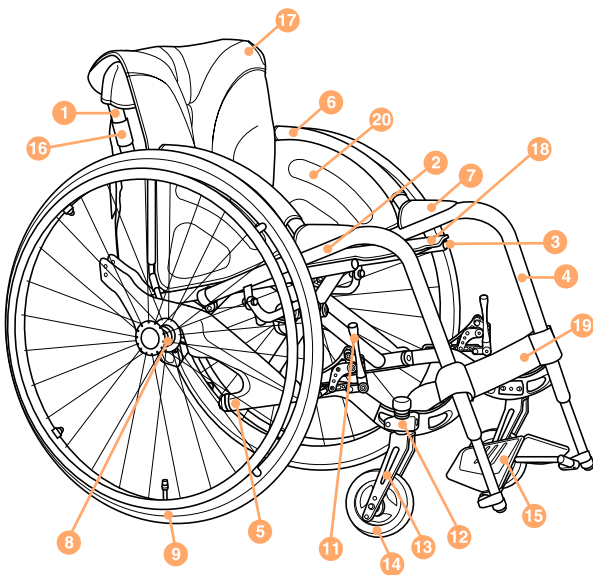
キャストの角度調整	18
-----------	----

オプション部品	19
ストレートアームサポート	19
グリップ(直角・Rタイプ)	19
折りたたみ式バックサポート	20
ドアローラー	20
転倒防止	20
ティッピングレバー	21
ステッキホルダー	21
ストレッチレッグカバー	22
ノンスリップネット	22
カテーターポケット	22
フロントキャリー	22
車いすの使用方法	23
乗り方・降り方	23
動かし方	23
段差の乗りこえ方	24
車いすの安全な持ち方	24
外出時の注意	25
メンテナンス	26
点検	26
お手入れ方法	26
交換部品	28
もしこんなトラブルが発生したときは	28
寸法表	29
保管場所・保証・アフターサービス	33
保証書	34

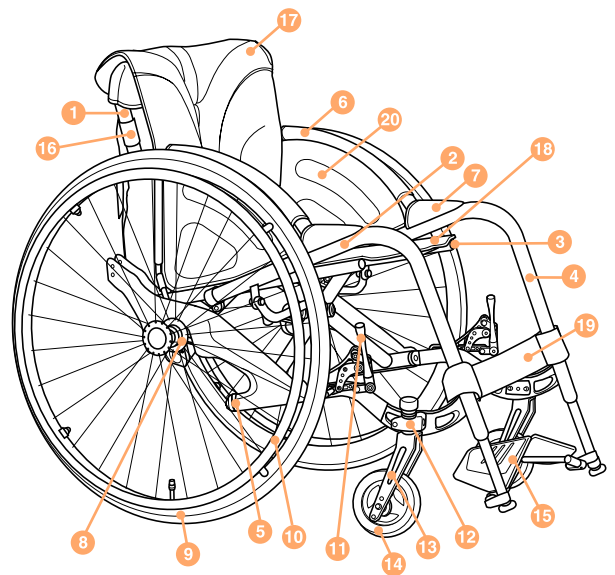
各部の名称

- ① バックサポートパイプ
- ② シートサイドパイプ
- ③ シートパイプ
- ④ レッグパイプ
- ⑤ ベースパイプ
- ⑥ アームパイプ
- ⑦ プッシュアップユニット
- ⑧ 車軸ホルダー
- ⑨ 着脱式駆動輪
- ⑩ ハンドリム
- ⑪ ブレーキ
- ⑫ スマートキャストシステム
- ⑬ キャスタフオーク
- ⑭ キャスタ輪
- ⑮ フットサポート
- ⑯ 背張りベルト
- ⑰ 背クッション
- ⑱ 座シート
- ⑲ レッグサポート
- ⑳ サイドガード

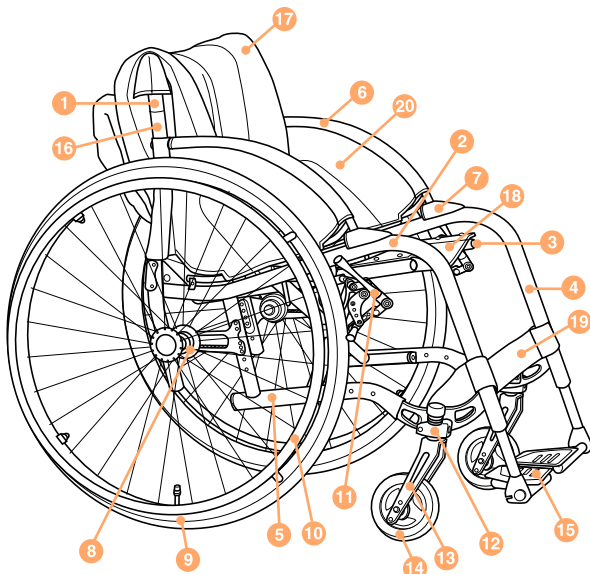
CL-R



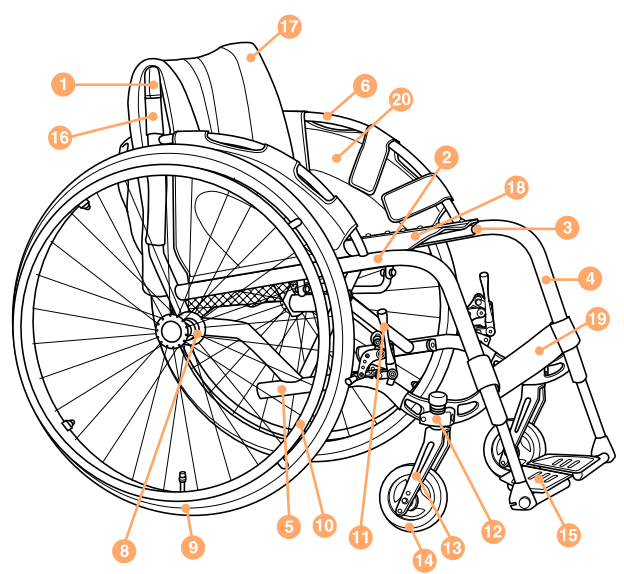
CL-X

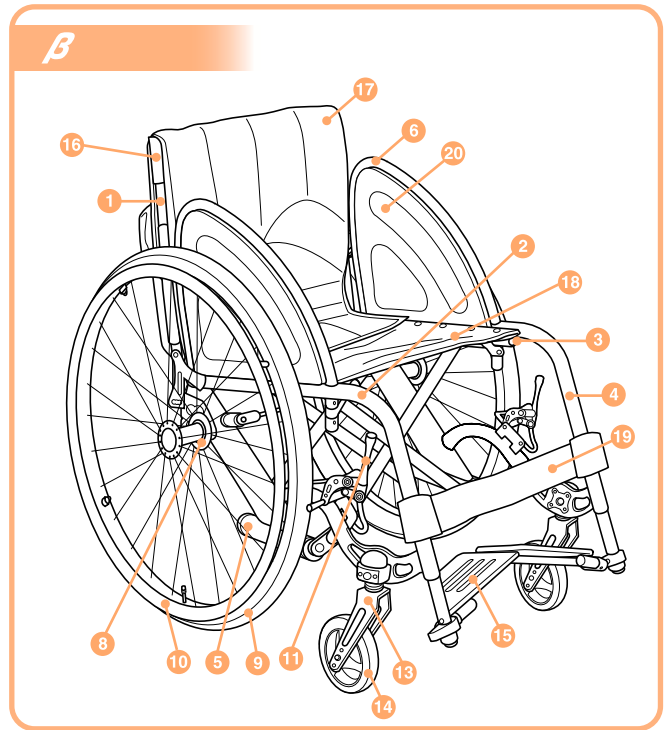
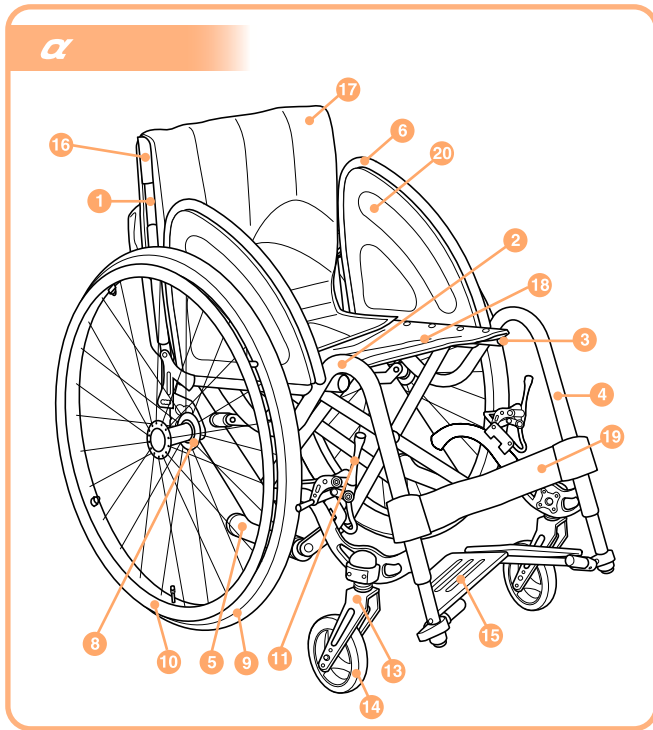


SYNERGY

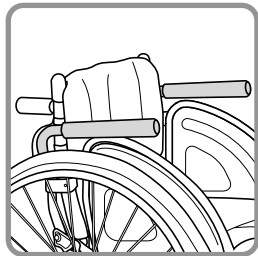


AIRNESS

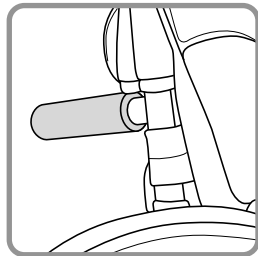




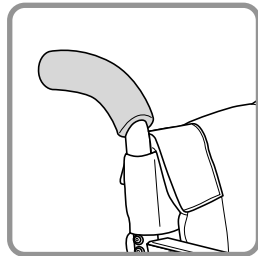
オプション部品



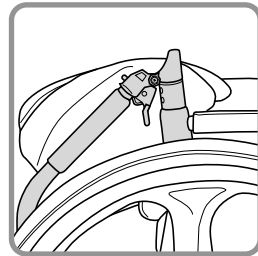
ストレートアームサポート



グリップ(直角タイプ)



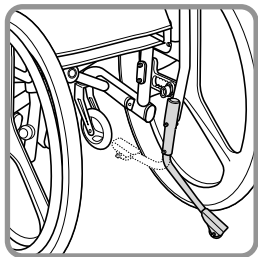
グリップ(Rタイプ)



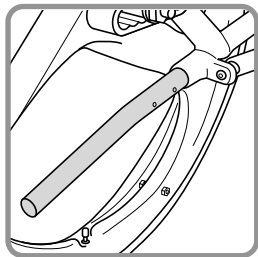
折りたたみ式
バックサポート



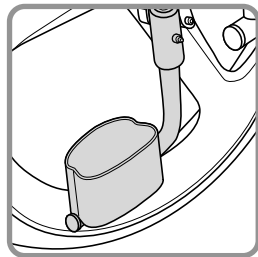
ドアローラー



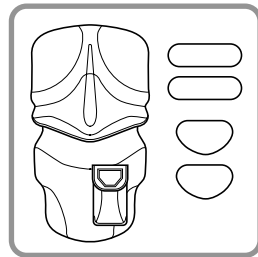
転倒防止
(イラストはクロスライン・シナジー用)



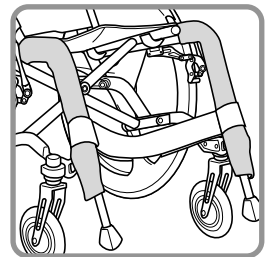
ティッピングレバー
(イラストはエアネス用)



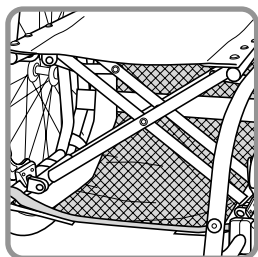
ステッキホルダー
(イラストはクロスライン・シナジー用)



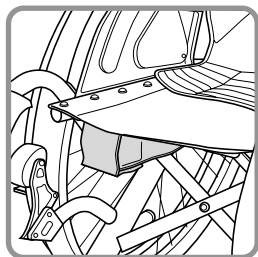
デラックスバックサポート
クッション



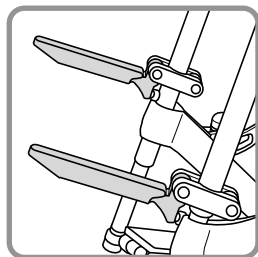
ストレッチレッグカバー



ノンスリップネット



カテーテルポケット
(マジック取外し式)



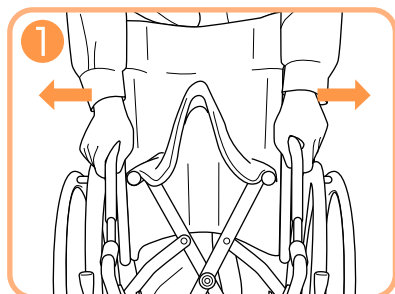
フロントキャリー

※機種により、標準・オプションの設定等が異なります。詳しくは、本カタログをご確認ください。

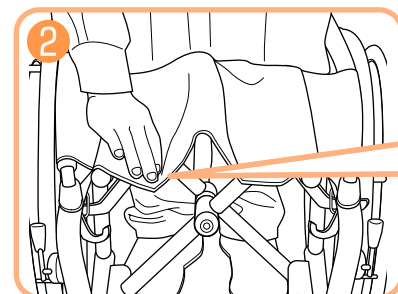
安全にお使いになるための使用方法

車いすの広げ方

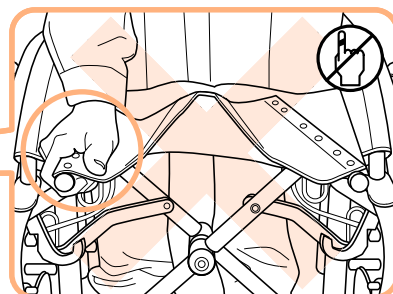
① バックサポートパイプもしくはアームパイプを持って左右に開く。



② シートパイプの上を手のひらで押さえ、完全に開く。



※手・指挟みに注意



③ 座クッションを座シートの上に置く。(座クッションを装着する場合)

⚠ 注意

●車いすを広げる時に、シートパイプの横や下に、手や指を入れないでください。パイプとパイプの間に手や指を挟んでケガをする原因となります。

してはいけない

⚠ 警告

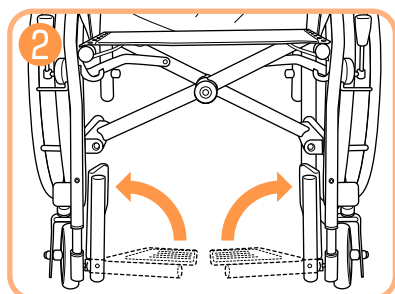
●車いすを広げた時、シートパイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因となります。

していただく

車いすの折りたたみ方

① 座クッションを外す。(座クッションを装着していた場合)

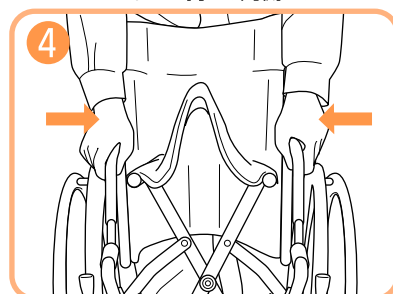
② フットサポートを跳ね上げる。(T.S.SⅢの場合は、この操作は不要)



③ 座シートの前方の中央を持ち上げる。



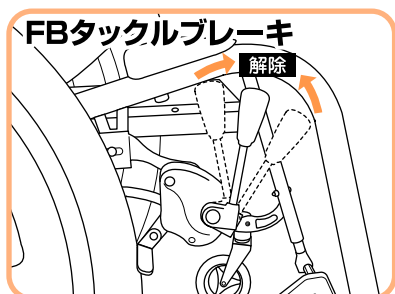
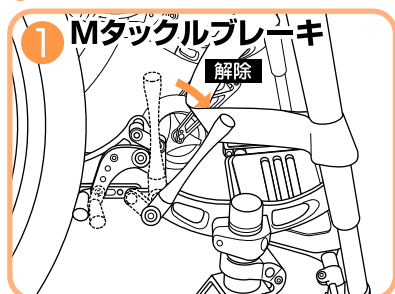
④ 左右のフットサポートパイプもしくはアームパイプを持ち、内側にたたむ。



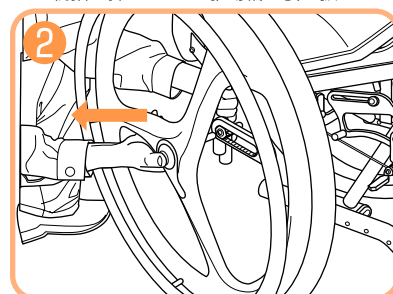
着脱式駆動輪の外し方

●車に搭載する時やパンク修理の時などは、駆動輪を外すと、便利です。

① ブレーキが解除されていることを確認する。



② フレームを押さえ、駆動輪中央のロックピンを親指で押したまま、駆動輪を引き抜きます。



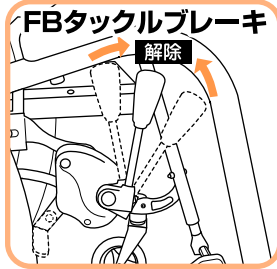
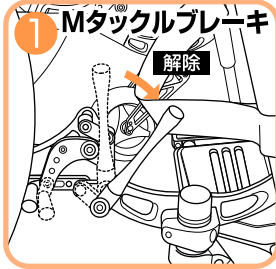
⚠ 警告

●使用中は駆動輪中央のロックピンを押さないでください。駆動輪が外れて、転倒・転落事故の原因となります。

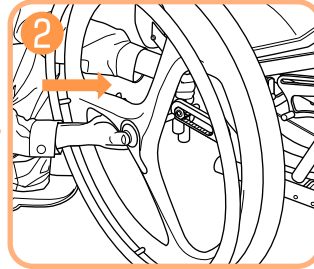
してはいけない

着脱式駆動輪の取付け方

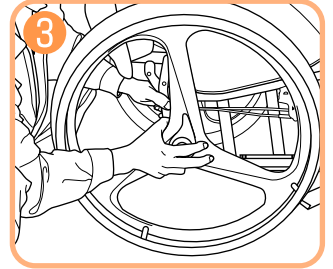
① ブレーキが解除されていることを確認する。



② 駆動輪中央のロックピンを親指で押したまま、シャフトを車軸穴に真っ直ぐに奥まで差込み、押している指を離す。



③ 駆動輪が確実に固定されたか確認する。



警告

●ご使用前は、駆動輪が確実に固定されていることを確認してください。
使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。

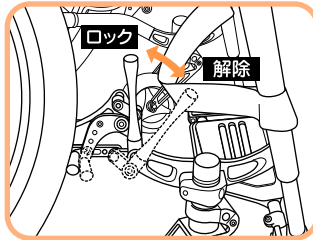
していただく

ブレーキの使用方法

●駐車時には、ブレーキをかけ、車輪の回転をロックします。

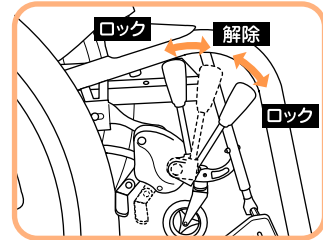
Mタックルブレーキ

ブレーキバーを後方に倒すとロックがかかり、前方に倒すと解除されます。



FBタックルブレーキ

ブレーキバーを後方または前方に倒すとロックがかかり、中央に戻すと解除されます。



警告

●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。

してはいけない



警告

●車いすに乗り降りする際は、必ずブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。

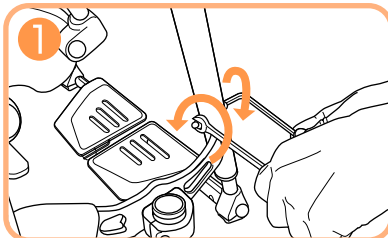
していただく

フットサポートの高さ調整

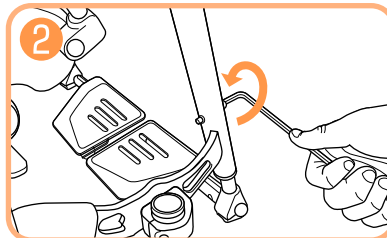
使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

●ユーザーに合わせて、フットサポートの高さを15mm間隔で調整できます。

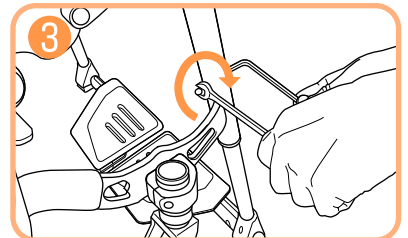
① 六角レンチとスパナを用いて、ナット、ボルトの順に外す。



② 高さを調整し、六角レンチを用いて、ボルトを奥までしめる。



③ ②のボルトを六角レンチで固定したまま、スパナを用いて、ナットをしめる。



* 適正トルク 3.5Nm



警告

●フットサポート高さ調整後は、高さ調整パイプが確実に固定されていることを確認してください。
使用中に外れ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく



警告

●フットサポート高さは、地面から50mm以上確保してご使用ください。
路面の凹凸や障害物に引っかかり、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

フットサポートの使用法

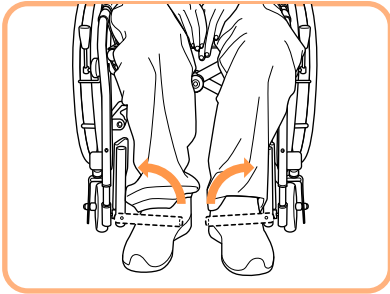
セパレートフットサポート

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

- 左右が独立した一般的なフットサポートです。
車いすを折りたたむ時、また車いすの前方から足を地面に降ろして乗り移りする場合は、フットサポートを跳ね上げます。
- ユーザーに合わせて、フットサポートの角度を調整できます。

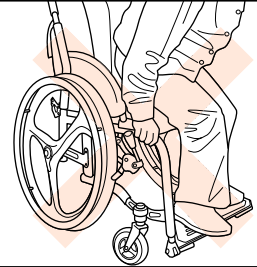
〈車いすの前方から足を地面に降ろして乗り移る場合〉

フットサポートを跳ね上げて、乗り移りする。



警告

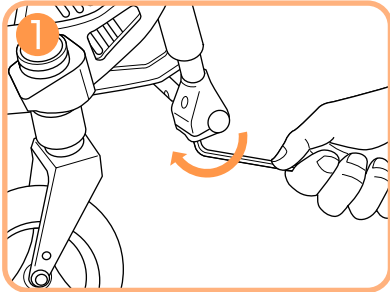
- 必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。
フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。



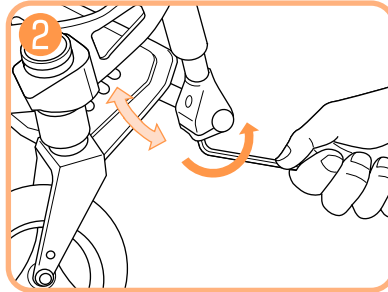
していただく

〈角度の調整方法〉

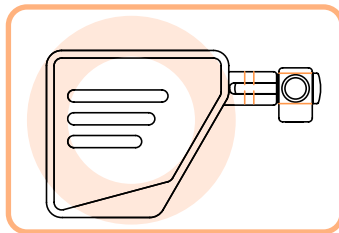
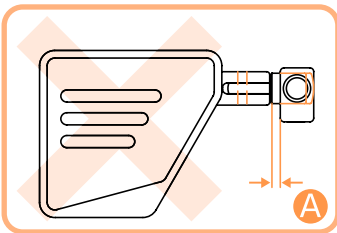
- ①六角レンチを用いて、フットサポート高さ調整パイプの先端のボルトをゆるめる。



- ②角度を調整し、六角レンチを用いて、ボルトをしめる。



* 適正トルク 10Nm



警告

- フットサポートプレート挿し込み部(A)にすき間がある状態で使用しないでください。
使用中にフットサポートが外れ転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

警告

- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。
使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてけケガの原因になります。

していただく

警告

- 以下の点で、フットサポートの調整角度に注意してください。
 - ・調整角度が大きいと、車いすの折りたたみがしにくくなります。
 - ・調整角度が大きいと、地面との接触の恐れがあります。
 部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

注意

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないように注意してください。
ケガの原因となります。

していただく

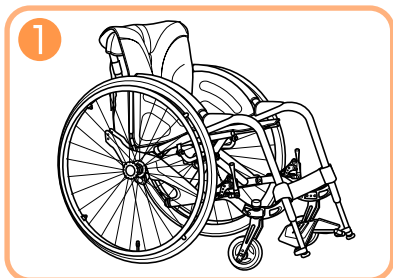
T.S.SⅢ

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

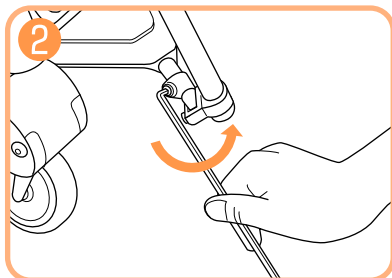
- 左右のフットサポートが真ん中で連結されたフットサポートです。車いすを折りたたむ時、自然とフットサポートも折りたたまれます。
- ユーザーに合わせて、フットサポートの角度を調整できます。

〈角度の調整方法〉

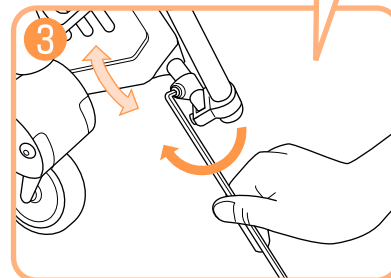
① 車いすを広げた状態にする。



② 六角レンチを用いて、角度調整ボルトをゆるめる。



③ 角度を調整し、六角レンチを用いて、ボルトをしめる。



* 適正トルク 13Nm

⚠ 注意

- フットサポート角度調整後は、自然にフットサポートが跳ね上がることを確認してください。車いすの故障の原因となります。

していただく

⚠ 注意

- フットサポートプレートを後方へ90度以上起こさないでください。バネの破損の原因となります。

してはいけない

⚠ 警告

- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてけがの原因になります。

していただく

⚠ 警告

- 以下の点で、フットサポートの調整角度に注意してください。
 - ・調整角度が大きいと、車いすの折りたたみがしにくくなります。
 - ・調整角度が大きいと、地面との接触の恐れがあります。部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

⚠ 注意

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないように注意してください。ケガの原因となります。

していただく

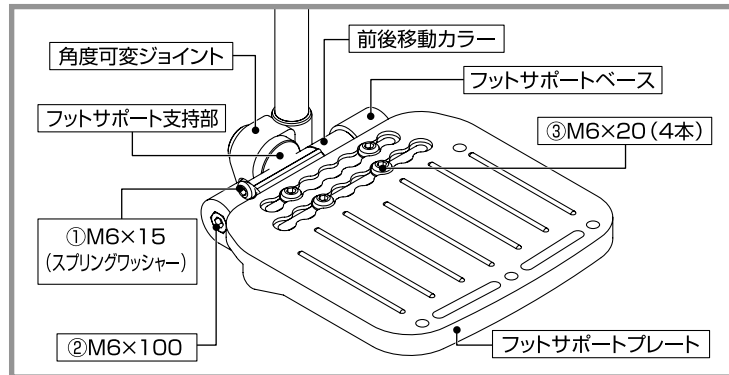
アジャストフットサポート

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺5mm六角レンチ

〈各部名称〉

* 適正トルク

- ① M6×15 … 10Nm
- ② M6×100 … 7Nm
- ③ M6×20 … 7Nm

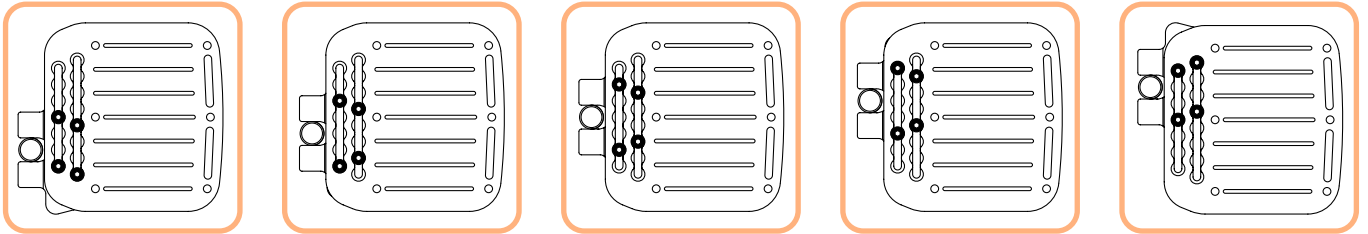


〈前後調整方法〉

基本的な調整方法

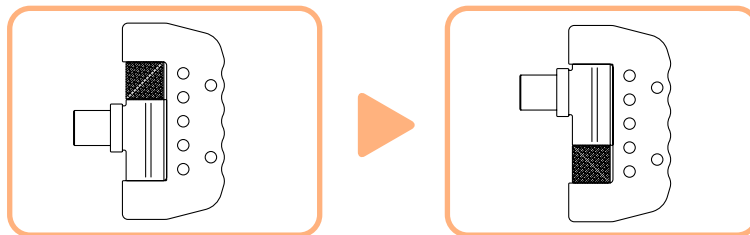
● ボルト位置

③M6×20 (4本) を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット (4個) を無くさないようにしてください。下の図のように、前後5段階に調節ができます。(13mm間隔) 4本のボルトを締めてください。
 ※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



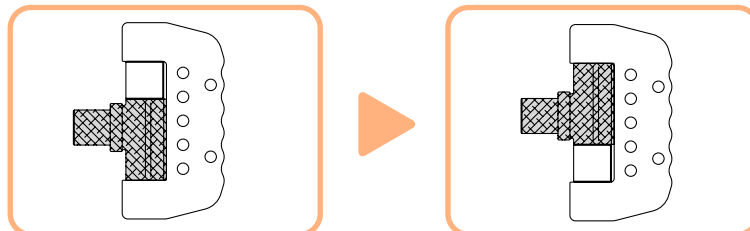
さらに調整する方法 (その1)

②M6×100 を取り外します。右の図のように、前後移動カラーを組み替えることで、さらに20mm調節ができます。



さらに調整する方法 (その2)

①M6×15 をゆるめます。(取り外す必要はありません)
 ※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。
 左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで13mm調節位置を変えることができます。



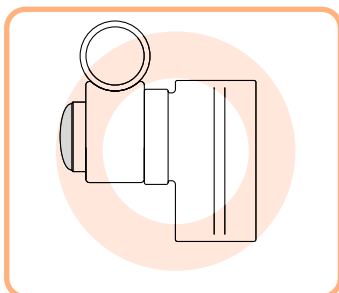
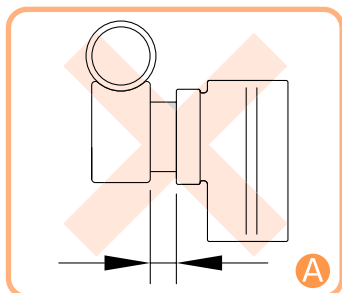
〈角度調整方法〉

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてください。

フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



警告

- フットサポートプレート挿し込み部Aにすき間がある状態で使用しないでください。使用中にフットサポートが外れ転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

- ②位置が決まったら、①M6×15を締めてください。フットサポートが動かないか確認してください。

警告

- 必ず、フットサポートを跳ね上げてから、乗り降りしてください。フットサポートに足を乗せたまま乗り降りすると、車いすが転倒し、ケガの原因となります。

していただく

警告

- フットサポート角度調整後は、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。使用中に、フットサポートが傾き、足が落ちてけケガの原因になります。

していただく

警告

- 以下の点で、フットサポートの調整角度に注意してください。
 - ・調整角度が大きいと、車いすの折りたたみがしにくくなります。
 - ・調整角度が大きいと、地面との接触の恐れがあります。
 部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

注意

- 左右のフットサポートのすき間に手足などを挟まないように注意してください。ケガの原因となります。

していただく

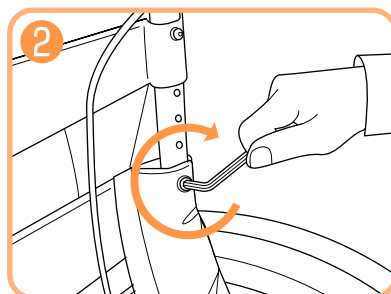
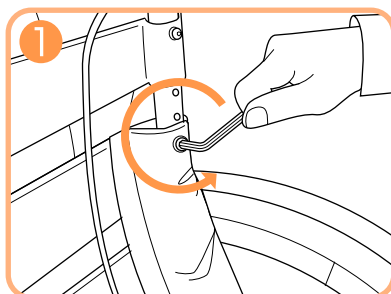
バックサポートの高さ調整

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ

- ユーザーに合わせて、バックサポートの高さを10mm間隔で調整できます。

① 六角レンチを用いて、背もたれ固定ボルトを外す。

② 高さを調整して、背もたれ固定ボルトをしめる。



* 適正トルク 10Nm

警告

- バックサポート高さ調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

バックサポートパイプの角度調整

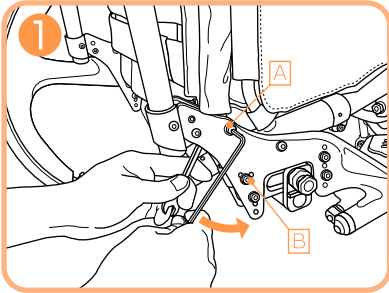
CL-R/X・ α ・ β のみ

●ユーザーに合わせて、バックサポートパイプの角度を86度・90度・94度の3段階で調整できます。

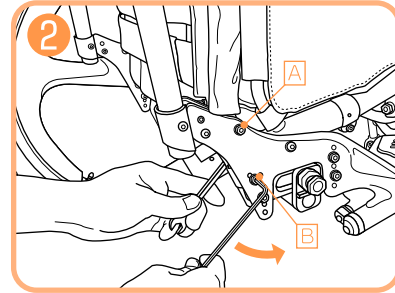
CL-R,X

使用工具 ・対辺4m六角レンチ ・対辺8mmスパナ

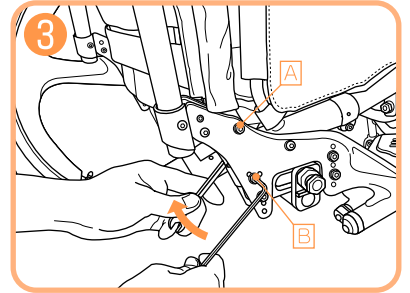
① 六角レンチとスパナを用いて、Aのボルトとナットをゆるめる。



② 六角レンチとスパナを用いて、Bのボルトとナットを外す。



③ 角度を調整して、A,Bのボルトをしめる。



* 適正トルク 10Nm



警告

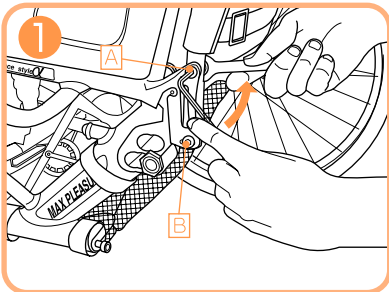
●バックサポート角度調整後は、バックサポートパイプが確実に固定されていることを確認してください。使用中にバックサポートパイプが外れ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

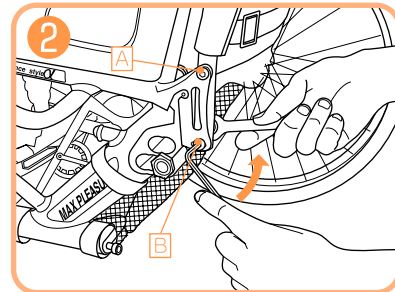
α ・ β

使用工具 ・対辺4m六角レンチ ・対辺10mmスパナ

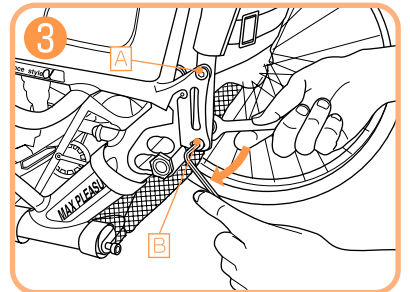
① 六角レンチとスパナを用いて、Aのボルトとナットをゆるめる。



② 六角レンチとスパナを用いて、Bのボルトとナットを外す。



③ 角度を調整して、A,Bのボルトをしめる。

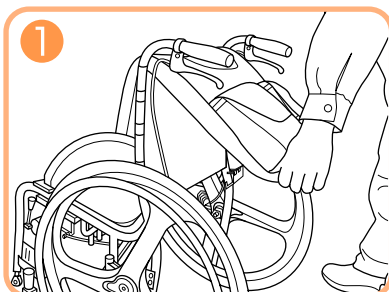


* 適正トルク 5Nm

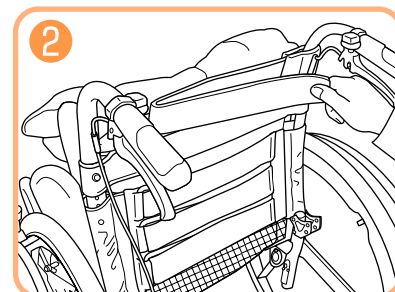
背シートの張り調整

●ユーザーに合わせて、背シートの張り具合を調整できます。

① 背クッション後ろ側のポケットの付いているタレをめくる。



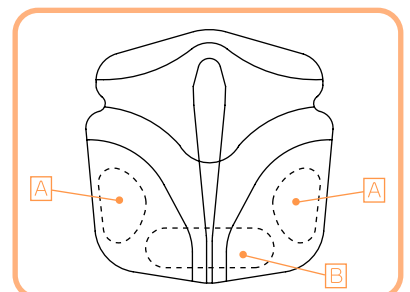
② 背張りベルトのマジックをはがし、張りを調整して、再びマジックをはり合わせる。



デラックスシート

●ユーザーに合わせて、付属のパットを入れてクッションの厚みを調整できます。

デラックスシートの内側に A.体幹パット B.ランバーサポートを出し入れするポケットがあります。



座角度の調整

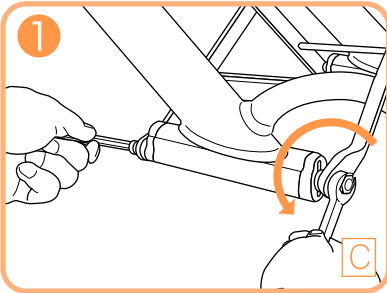
βのみ

使用工具

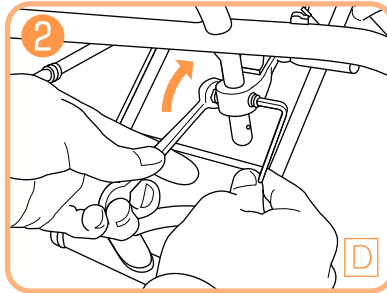
・対辺3、6mm六角レンチ ・対辺8、13mmスパナ

●ユーザーに合わせ、座角度を3段階で調整できます。

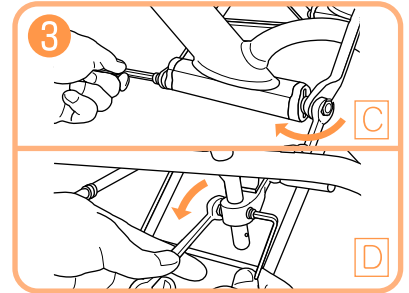
① 6mm六角レンチと13mmスパナを用いて、クロスパイプ取付け部Cのボルト・ナットを外す。



② 3mm六角レンチと8mmスパナを用いて、シートサポート取付け部Dのボルトを外す。



③ 六角レンチとスパナを用いて、クロスパイプ取付け部Cと、シートサポート取付け部Dの取付け穴[上・中・下]の位置を合わせてボルト・ナットをしめる。



C * 適正トルク 10Nm

D * 適正トルク 4Nm



警告

●クロスパイプ取付け部Cと、シートサポート取付け部Dの取付け穴[上・中・下]の位置は必ず合わせて、確実にしめてください。位置が違くと故障の原因になります。

していただく



警告

●座角度調整後は、確実に固定されていることを確認してください。使用中に、クロスフレームが動き、ケガの原因となります。

していただく

駆動輪のキャンバー角度の調整

GL-Rのみ

使用工具

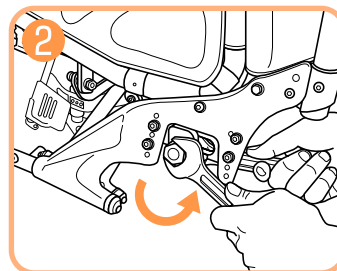
・対辺24mmスパナ 2本

●駆動輪のキャンバー角度を0度 ↔ 2度に変更することができます。

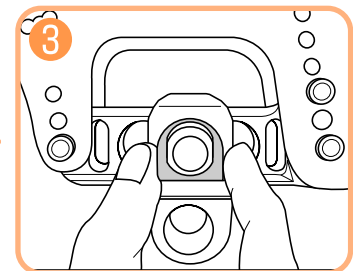
※キャンバー角度を2度に変更することができるのは、前後差が50～70mmの場合に限ります。

① 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)

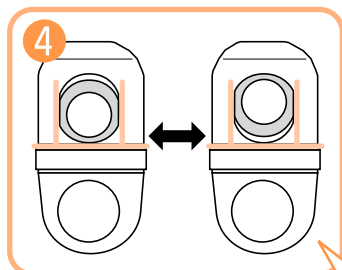
② スパナ2本を用いて外側のナットを外す。



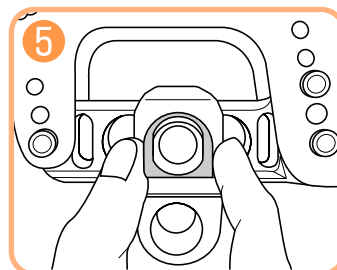
③ ホルダーガイドを外す。



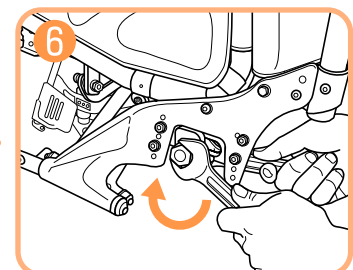
④ 車軸ホルダーを上下反転させる。



⑤ ホルダーガイドを取付ける。



⑥ スパナ2本を用いて外側のナットをしめる。



⑦ 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

POINT
サイドの面が垂直になるように合わせる。

* 適正トルク 30Nm

座高に関わる調整

後座高に関わる調整

駆動輪の位置移動

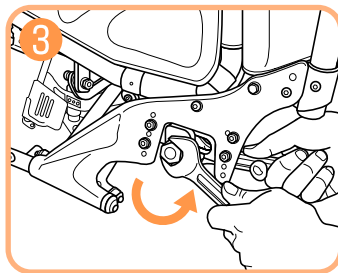
●駆動輪の位置を調整できます。

CL-R (パターン1)

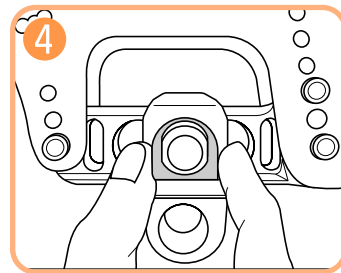
使用工具 ・対辺24mmスパナ 2本

- 1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)

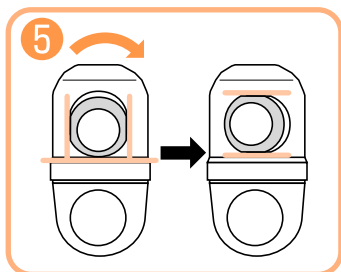
- 3 スパナ2本を用いて外側のナットを外す。



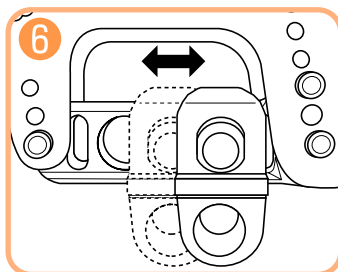
- 4 ホルダーガイドを外す。



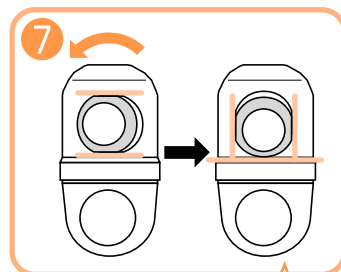
- 5 車軸ホルダーを90度回転させる。



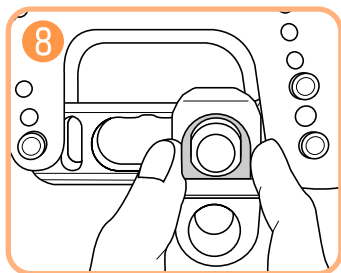
- 6 車軸ホルダーを前後方向にスライドさせて左右同一の位置に移動する。



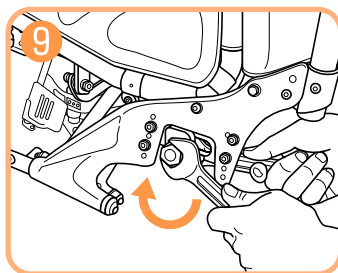
- 7 車軸ホルダーを90度戻す。



- 8 ホルダーガイドを取付ける。



- 9 スパナ2本を用いて外側のナットをしめる。



POINT
サイドの面が垂直になるように合わせる。

* 適正トルク 30Nm

- 10 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

- 11 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。
(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)

警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

注意

●車軸ホルダーをスライドさせるため、90度回転させた後は、必ず、元に戻す方向に90度回転させてください。さらに90度回転させてしまうと、キャンバー角度が変わってしまいます。

していただく

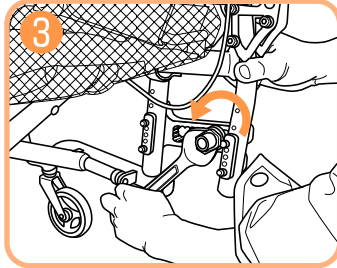
SYNERGY

使用工具 ・対辺24mmスパナ

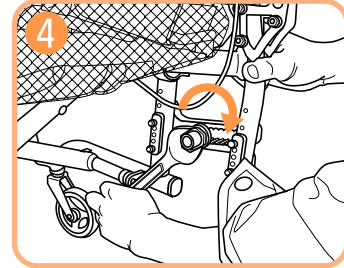
* 適正トルク 30Nm

- 1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)
- 5 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

3 スパナを用いて車軸ホルダーとナットを外す。



4 車軸ホルダーを左右同一の穴位置に移動し、ナットをしめる。



6 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。
ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

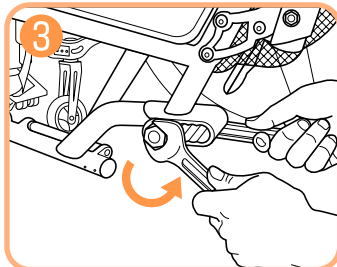
AIRNESS

使用工具 ・対辺24mmスパナ 2本

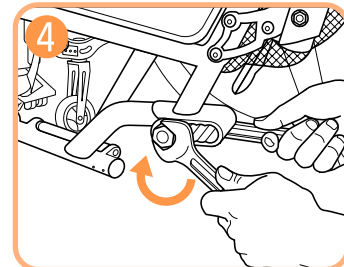
* 適正トルク 30Nm

- 1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)
- 5 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

3 スパナを用いて車軸ホルダーとナットを外す。



4 車軸ホルダーを左右同一の穴位置に移動し、ナットをしめる。



6 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。
ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

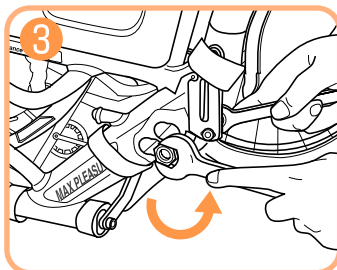
α・β

使用工具 ・対辺24mmスパナ 2本

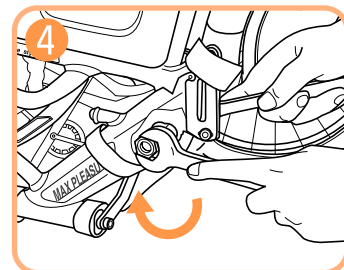
* 適正トルク 30Nm

- 1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)
- 2 ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)
- 5 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

3 スパナを用いて車軸ホルダーとナットを外す。



4 車軸ホルダーを左右同一の穴位置に移動し、ナットをしめる。



6 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。
ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

サスペンションユニットの位置移動

●駆動輪の位置を調整できます。

CL-X

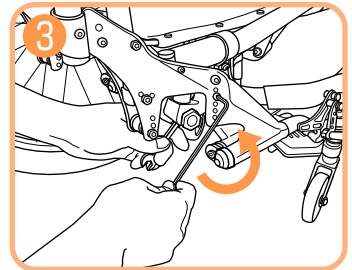
使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

* 適正トルク 10Nm

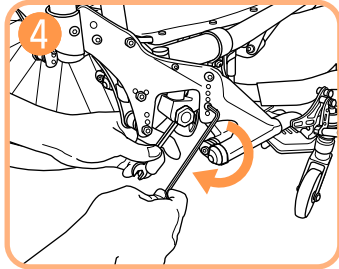
1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)

2 プレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)

3 六角レンチとスパナを用いて、サスペンションユニット固定ボルトとナットを外す。



4 サスペンションユニットを移動し、ボルトとナットをしめる。



5 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

6 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。
(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

アクスルブラケットの位置移動

●駆動輪の位置を調整できます。

CL-R

使用工具 <前方> 対辺5mm六角レンチ、対辺10mmスパナ <後方> 対辺4mm六角レンチ、対辺8mmスパナ

<前方>

* 適正トルク 10Nm

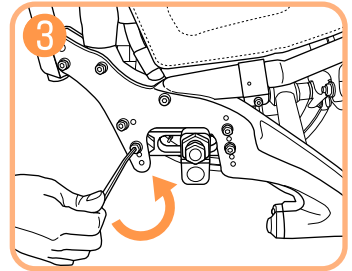
<後方>

* 適正トルク 7Nm

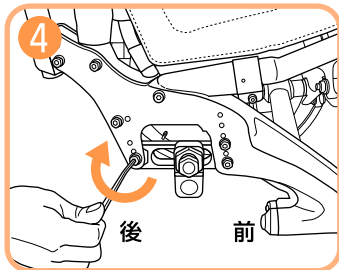
1 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)

2 プレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)

3 六角レンチとスパナを用いてアクスルブラケット固定ボルトを外す。



4 アクスルブラケットを移動し、ボルトをしめる。



5 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

6 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。
(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

ハブ取付けプレートの位置移動

●ハブ取付けプレートの位置を調整できます。

SYNERGY

使用工具

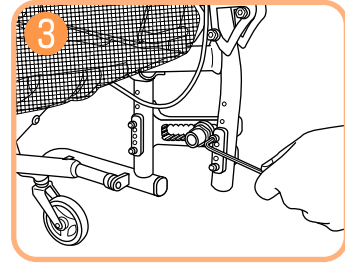
・対辺4mm六角レンチ

*** 適正トルク 13Nm**

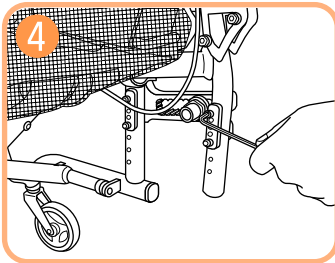
① 駆動輪を外す。
(→P.5駆動輪の外し方)

② ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。
(→P.16ブレーキの調整)

③ 六角レンチを用いて、ハブ取付けプレートの4ヶ所の固定ボルトを外す。



④ ハブ取付けプレートを移動し、ボルトをしめる。



⑤ 駆動輪を取付ける。
(→P.6駆動輪の取付け方)

⑥ 駆動輪位置の移動に合わせて、ブレーキを調整する。
(→P.16ブレーキの調整)
また、キャストの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)



警告

●駆動輪位置の移動時は、必ずブレーキの位置とキャスト角度も合わせて調整してください。ブレーキがかからなかったり、車いすから転落する事故の原因となります。

していただく

ブレーキの調整

●ブレーキの位置と角度を調整できます。

使用工具

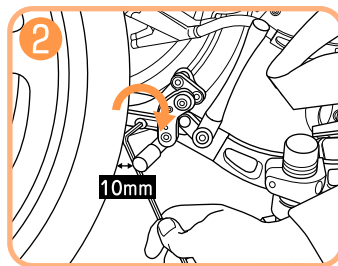
〈位置の調整〉対辺5mm六角レンチ

〈角度の調整〉Mタックル…4mmレンチ、10mmスパナ、FBタックル…4mmレンチ

① 六角レンチを用いて、ブレーキプレート固定ボルトをゆるめる。

② ブレーキを解除した状態で、ブレーキシユウと車輪の間隔が約10mmのところ、ボルトを固定する。

*** 適正トルク 10Nm**

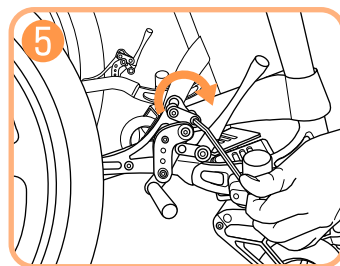
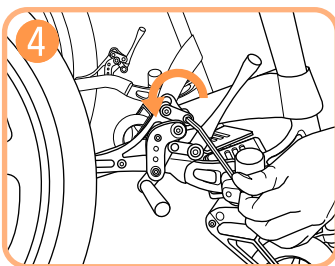


③ ブレーキの効き具合を確認する。

④ ブレーキの効きが悪い場合は、六角レンチ (Mタックルの場合はスパナも) を用いて、ブレーキ角度固定ボルトをゆるめる。

⑤ ブレーキの角度を調整し、ボルトを固定する。

*** 適正トルク 8Nm**



⑥ ブレーキの効き具合を確認する。



警告

●ブレーキの調整後は、ブレーキが確実にかかることを確認してください。駐車時にブレーキがかからず、事故の原因となります。

していただく

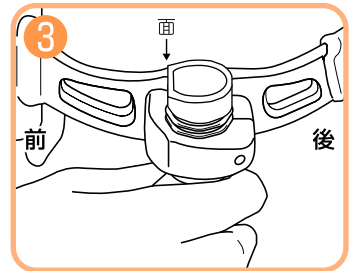
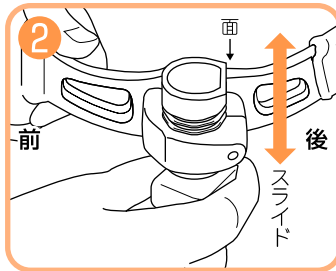
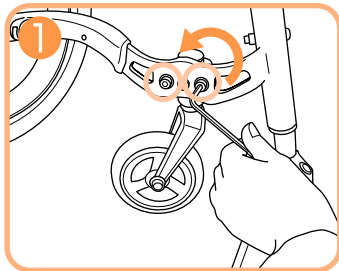
前座高に関わる調整

キャストケースの高さ調整

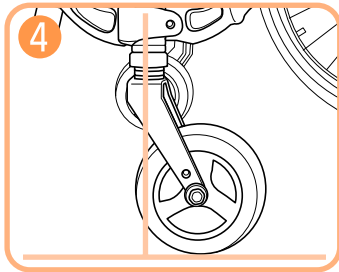
使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

●キャストケースの高さを変えることで前座高を調整できます。

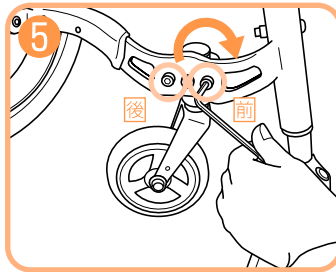
- 1 アジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)をキャストケースの角度が自在に動くまでゆるめる。
- 2 キャストケースの面を後方に向け、スライドさせる。
- 3 キャストケースを左右同じ高さに調整し、面を前方に向け直す。



- 4 キャストケースの角度を地面に対して垂直にする。



- 5 アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



前 * 適正トルク 10Nm

後 * 適正トルク 7Nm

警告

●キャストケースの高さ調整時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。
高さ調整後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。

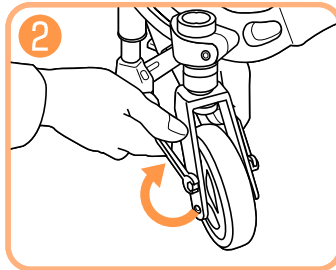
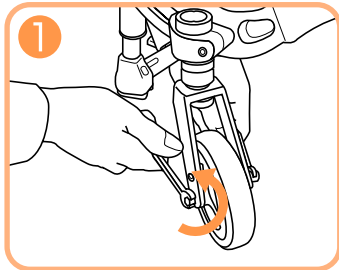
していただく

キャストフォークの穴位置変更

使用工具 ・対辺10mmスパナ2本

●フォークの穴位置を変えることで前座高を調整できます。

- 1 キャスタ輪固定ボルトとナットを外す。
- 2 左右同じ穴位置にキャスト輪を移動し、キャスト輪固定ボルトとナットをしめる。



- 3 キャスタの角度を地面に対して垂直になるよう調整する。
(→P.18キャストの角度調整)

* 適正トルク 4Nm

警告

●キャストフォークの穴位置変更時は、必ずキャスト角度も合わせて調整してください。
穴位置変更後は、キャストの角度が地面と垂直でないため、車いすの破損や転落事故の原因となります。

していただく

注意

●キャスト輪固定ボルトをしめた後、必ずキャスト輪が回転することを確認してください。
回転しない場合は、回転するまでボルト・ナットをゆるめてください。

していただく

キャストの角度調整

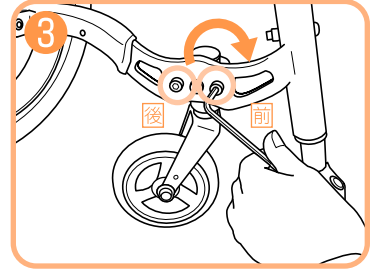
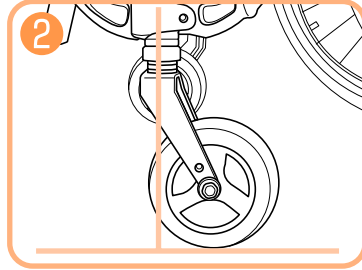
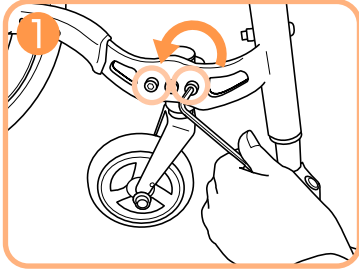
使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

●前座高、後座高の調整後は、必ずキャストの角度を地面と垂直にします。

① アジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)をキャストケースの角度が自在に動くまでゆるめる。

② キャスタケースの角度を地面に対して垂直にする。

③ アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



警告 ●キャストの角度調整後は、キャスト角度が確実に固定されていることを確認してください。使用中、キャストの角度が変わり、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。

前 * 適正トルク 10Nm

後 * 適正トルク 7Nm

していただく

角度調整をしてもキャストケースが地面に対して垂直にならないとき

●キャスト角度セレーションプレートを裏返すことにより、さらに細かい角度調整ができます。

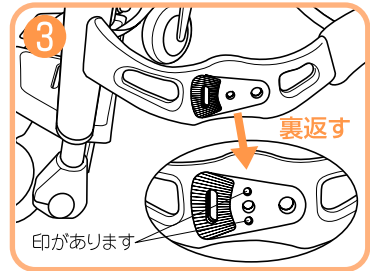
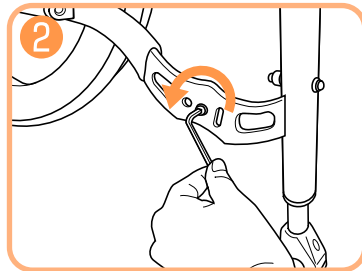
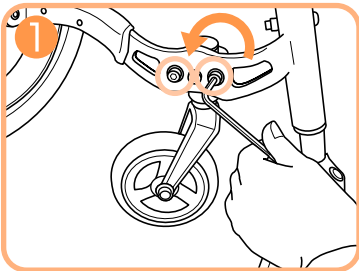
*セレーションプレートには、目印のため、片面には2箇所には窪みが入っております。

*アジャスタブルキャスト固定ボルトを外すと、キャストケースの高さがずれるため、外す前にあらかじめ、キャストケースの高さを確認しておいてください。

① 5mm六角レンチを用いてアジャスタブルキャストケース固定ボルト(2ヶ所)を外す。

② 3mm六角レンチを用いてキャストプレート固定ボルトを外す。

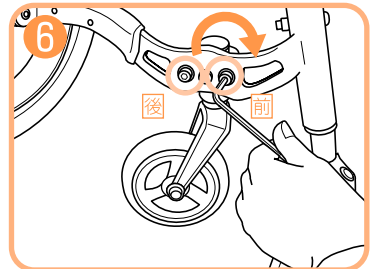
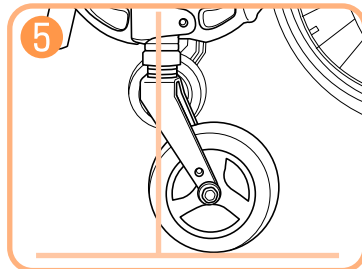
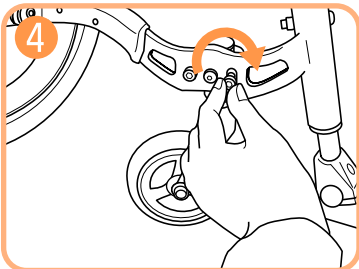
③ キャスタプレートにはめられているセレーションプレートを裏返し、②のボルトを固定する。



④ アジャスタブルキャストケース固定ボルトを仮締めする。

⑤ キャスタケースの角度を地面に対して垂直にする。

⑥ アジャスタブルキャストケース固定ボルトをしめる。



警告 ●アジャスタブルキャストケース固定ボルトを外したときは、キャストケースの高さがずれないように注意してください。車いすが傾いて正常な状態でなくなるため、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。

前 * 適正トルク 10Nm

後 * 適正トルク 7Nm

していただく

オプション部品

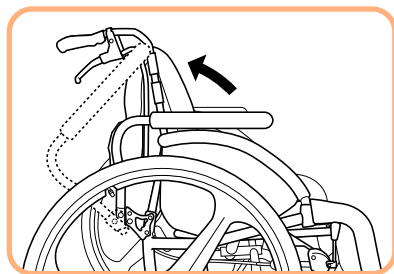
ストレートアームサポート

使用工具 ・対辺4mm六角レンチ ・対辺10mmスパナ

- 肘を掛けて姿勢を安定させることができます。
- 乗り移りの時は、ストレートアームサポートを跳ね上げることができるので、便利です。
- 高さを10mm間隔で調整することができます。

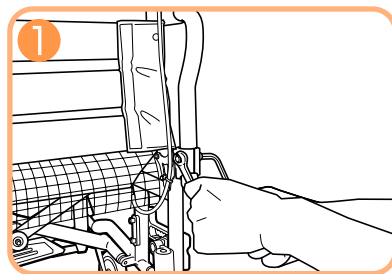
〈跳ね上げの方法〉

ストレートアームサポートを後方へ跳ね上げる。

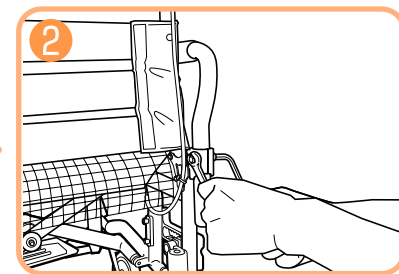


〈高さの調整方法〉

① 六角レンチとスパナを用いて、ボルトとナットを外す。



② 高さを調整し、六角レンチとスパナを用いて、ボルトとナットを完全にしめる。



* 適正トルク 13Nm

⚠ 注意

- ストレートアームサポートを戻すときは、確実に最後まで戻してください。使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

⚠ 注意

- ストレートアームサポート高さ調整後は、ストレートアームサポートが確実に固定されていることを確認してください。使用中に、ストレートアームサポートが動き、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

⚠ 注意

- ストレートアームサポートの高さ調整後は、以下の点を確認してください。
 - ・跳ね上げたときに完全に跳ね上がるか、跳ね上げに支障はないか。
 - ・ストレートアームサポートを戻したとき、駆動輪に接触しないか。接触した場合は、ただちに接触しない高さにしてください。部品の破損やケガ、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

⚠ 注意

- 車軸位置を変更された時は、必ずストレートアームサポートの跳ね上げ動作を確認してください。場合によっては、パイプ等のすき間で指や手などを挟んでケガをする原因になります。

していただく

グリップ (直角・Rタイプ)

- 介助者が車いすを押す場合に使用します。
- 介助者が車いすを押して段差を乗り越える場合は、必ず、オプション品のティッピングレバーと一緒にご使用ください。→P.21ティッピングレバー
- グリップを交換する場合は、P.10「バックサポート高さの調整」と同様の手順で交換してください。

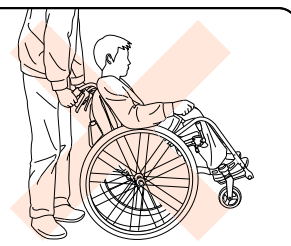
〈車いすを押す場合〉

グリップを握って車いすを押す。



⚠ 警告

- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



してはいけない

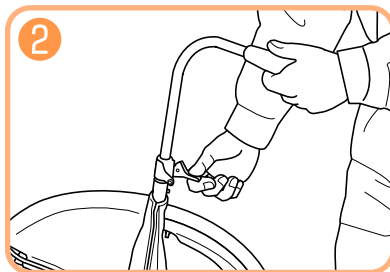
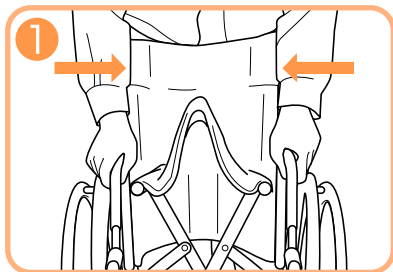
折りたたみ式バックサポート

●車いすがよりコンパクトに折りたためるので、車に搭載する場合や収納する場合などに便利です。

〈折りたたみ方〉

① 車いすを折りたたむ。
(→P.5車いすの折りたたみ方)

② ロックレバーを倒し、グリップを倒す。

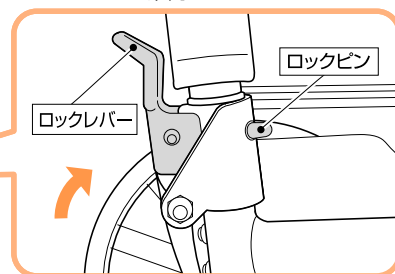
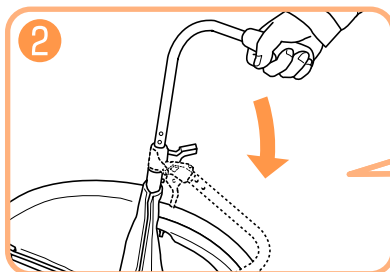
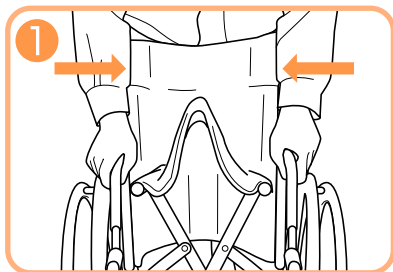


〈起こし方〉

① 車いすが折りたたまれていることを確認する。

② グリップを持ち上げる。

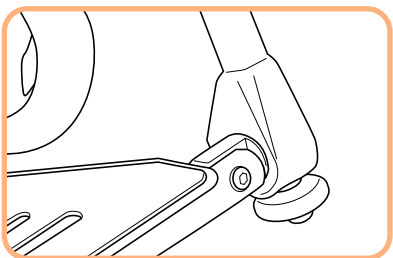
ロックレバーが起きて、ロックピンが出ていることを確認する。



ドアローラー

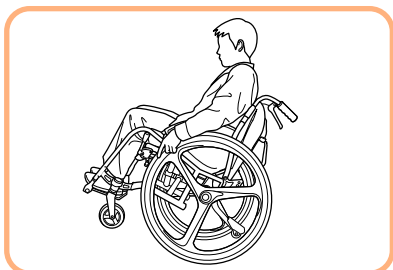
セパレートステップ・TSSに装備

●車いすが壁に接触した時、壁が傷つくのを防ぎます。
また、壁に接触しても、ローラーが回るので、スムーズに動きます。



転倒防止

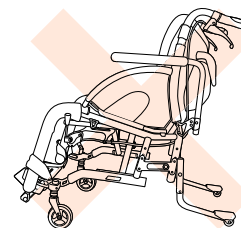
●前輪を上げた時や車いすの後方に力が加わった時、車いすが後方に転倒するのを防ぎます。



警告

●ホイールを外した状態で、転倒防止ユニットの車輪を駆動輪代わりにして使用しないでください。

車いすが破損して、転倒・転落事故の原因となります。



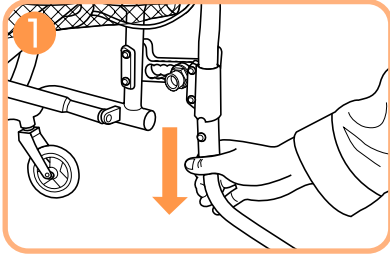
してはいけません

CROSS LINE・SYNERGY用転倒防止の場合

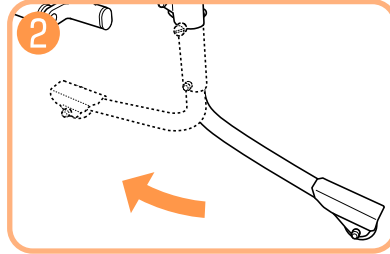
●使用しない時には、転倒防止を収納しておくことができます。

〈収納時〉

① 回転シャフト部の転倒防止パイプを真下に下げます。

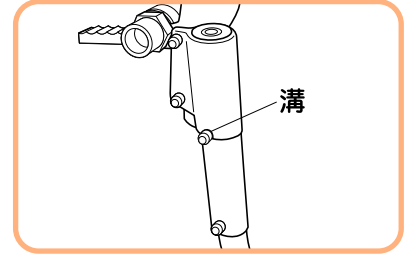


② 転倒防止パイプを下げたまま、内回りで前方へ回転させます。



〈使用時〉

収納時の逆で、後方へ回転させますが、その時、ピンを溝にはめ、ロックしてください。



⚠ 注意

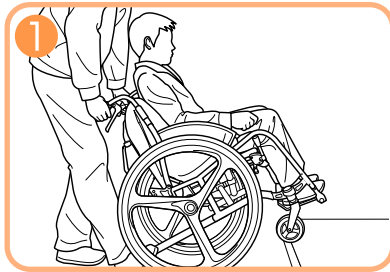
●転倒防止使用時は、必ずピンが溝にはまって確実にロックされていることを確認ください。
転倒防止機能が動かなくなり、事故の原因となります。

していただく

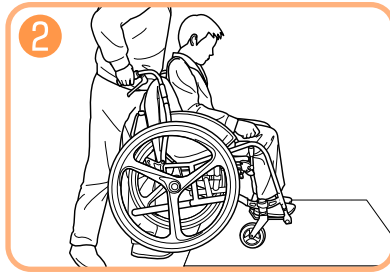
ティッピングレバー

●介助者が車いすを押して、段差を乗り越える際に、ティッピングレバーを踏むと乗り越えやすくなります。

① グリップを持ち、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ、前輪を段上に乗せる。

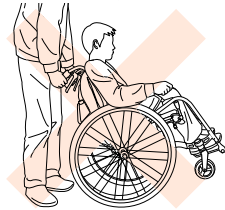


② 後輪を浮かせながら、車いすを前方に進めて、後輪も段上に乗せる。



⚠ 警告

●グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



⚠ 警告

●スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

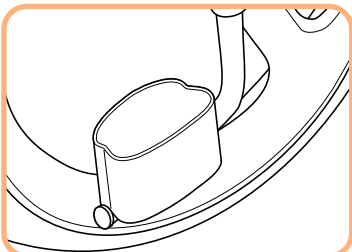
してはいけない

してはいけない

ステッキホルダー

●杖を使用される方は、杖を入れておくことができます。

取付方法は取扱説明書を商品と一緒に同梱します。

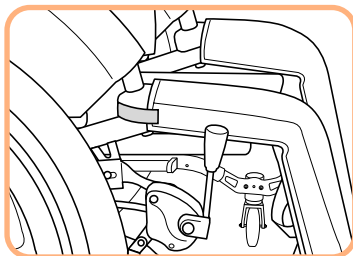
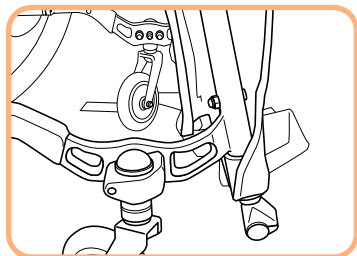


ストレッチレッグカバー

●シートサイドパイプやレッグパイプを握るとき、冷たくなく、ソフトな感触です。

レッグカバーの切り込みをキャスタープレートに合わせ、下から順にパイプに巻きつけます。

マジックテープをアームパイプに引っかけてレッグカバーにとめる。



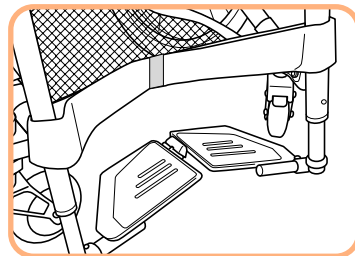
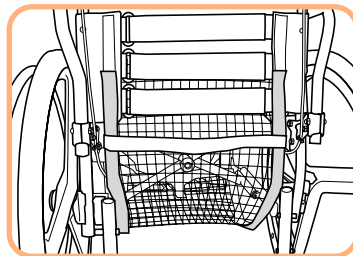
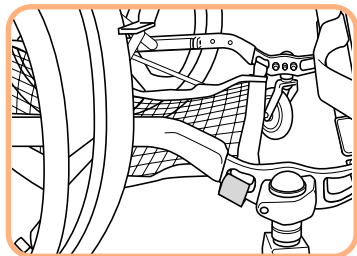
ノンスリップネット

マジックテープをベースパイプに巻きつけます。

●物を入れて置くのに便利です。

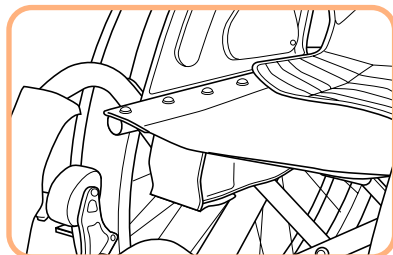
後方のマジックテープは、背張りベルトの裏面に固定します。

前方中央のベルトは、場合によっては、レッグサポートに固定してもよいです。



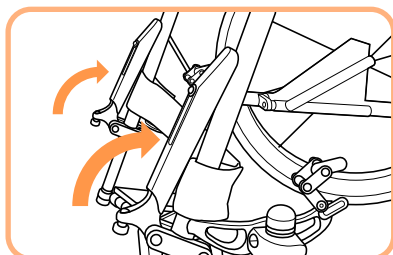
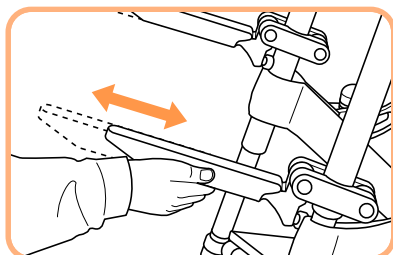
カテーテルポケット

●カテーテルを入れるものです。
取り外しのできるマジック式です。
座シート裏面にマジック式にて取り付けます。



フロントキャリー

●大きな荷物を乗せることができるので、持ち運びに便利です。
3段階で伸び縮みします。使わないときは、たたんでおくことができます。



車いすの使用法

乗り方・降り方

警告 ●車いすに乗り降りする際は、必ずブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。

していただく

警告 ●車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

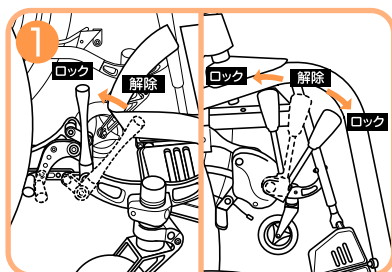
していただく

警告 ●乗り降りの際、介助が必要な方は、必ず介助者が付き添ってください。
バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

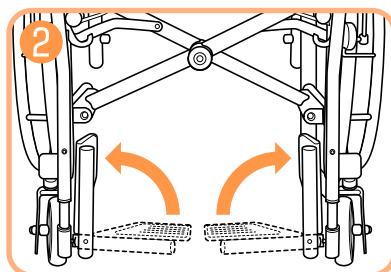
していただく

乗る時

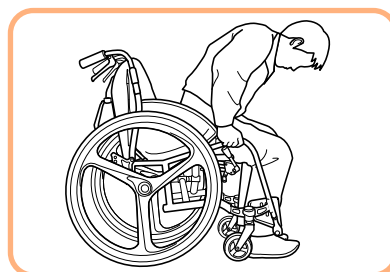
- ① ブレーキを両側ロックする。
(→P.6ブレーキの使用法)



- ② フットサポートを跳ね上げる。
(T.S.SⅢの場合は、この操作は不要です)

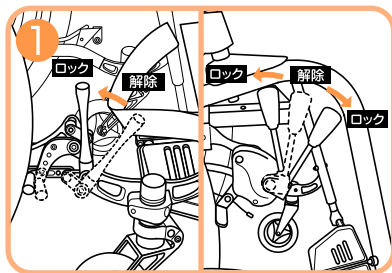


- ③ ゆっくりと車いすに乗り込む。
④ フットサポートに足を乗せる。

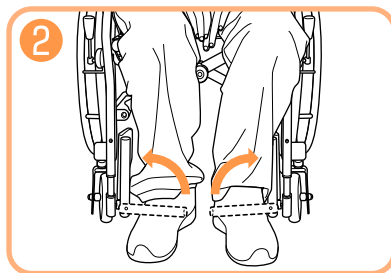


降りる時

- ① ブレーキを両側ロックする。
(→P.6ブレーキの使用法)



- ② フットサポートを上げ、足を下ろす。
(T.S.SⅢの場合は、この操作は不要です)



- ③ ゆっくりと車いすから降りる。

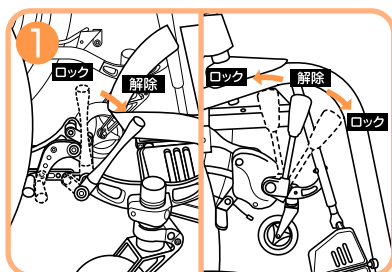
警告

●グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

動かし方

- ① ブレーキロックを解除する。
- 〈ご自身で操作する場合〉
② ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動する。
- 〈介助される場合〉
グリップやバックサポートパイプを指定して、押ししてもらいます。



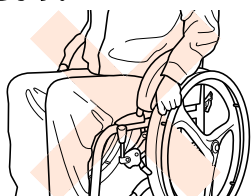
警告

●車いすを押す時は、スピードを出さないでください。
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

してはいけない

⚠️ 注意

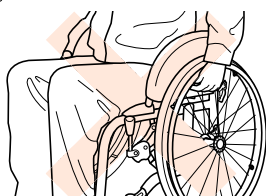
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。



してはいけない

⚠️ 注意

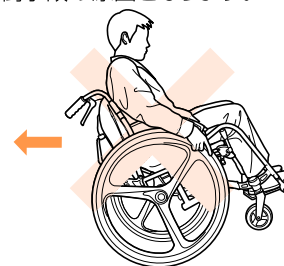
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。



してはいけない ※このような場合にはマツナガオプションのスポークカバーのご使用をおすすめします。

⚠️ 警告

- バックしながら急停止しないでください。
転倒事故の原因となります。



してはいけない

⚠️ 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋（オプション）をご使用ください。

してはいけない

⚠️ 警告

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・電車への乗車、下車
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行
- ・踏み切りの横断
- ・悪路
- ・段差乗り越え

段差の乗り越え方

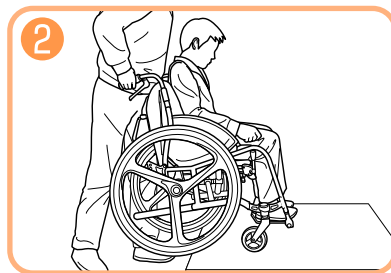
介助者援助をお願いしてください。

- 段差を乗り越える場合、介助者の方は、オプション品のティッピングレバーを使用してください。

- 1 グリップを持ち、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ、前輪を段上に乗せる。



- 2 後輪を浮かせながら、車いすを前方に進めて、後輪も段上に乗せる。



⚠️ 警告

- グリップのみに力を加えて、前輪を上げないでください。
グリップやバックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、車いすの破損や転倒・転落事故の原因となります。



してはいけない

⚠️ 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
ユーザーが車いすから転落して事故の原因となります。

してはいけない

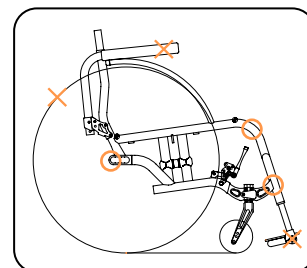
車いすの安全な持ち方

- 車いすに人が乗った状態で、車いすを持ち上げて移動する時は、2名～4名で車いすの両側の○印のところを指定して安全に介助してもらいましょう。

⚠️ 警告

- 車いすに人が乗った状態で車いすを持ち上げるときは、声をかけ合って、皆同時にゆっくりと持ちあげていただくようにしてください。
持ち上げたとき座面が斜めになり、バランスをくずして、転倒・転落事故の原因となります。

していただく

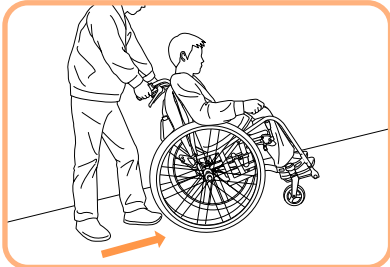


外出時の注意

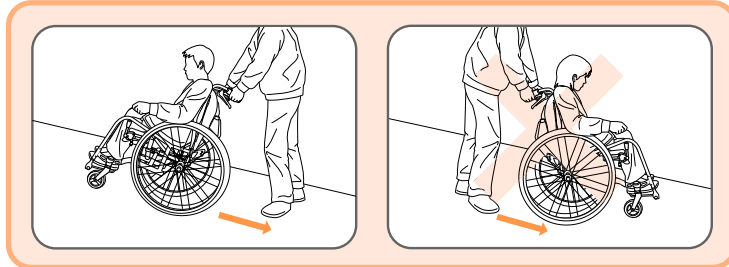
介助者援助をお願いしてください。

●坂道の登り下りや踏み切りなど凹凸のある路面でご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂



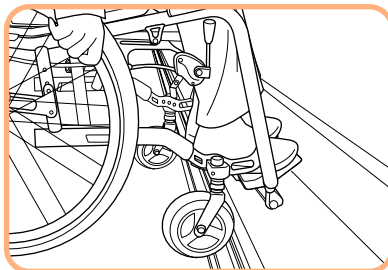
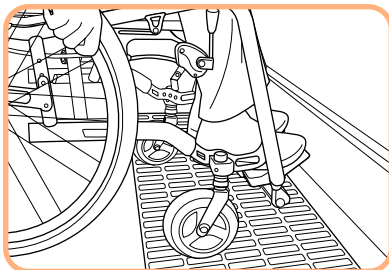
下り坂



警告

●坂道を下るとき、介助者の方は車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。

していただく



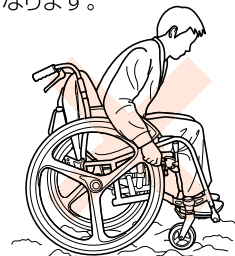
警告

●側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、溝にキャストが落ち込まないように必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。車輪が溝にはまって転倒・転落事故の原因となります。

していただく

警告

●凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使わないでください。バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。

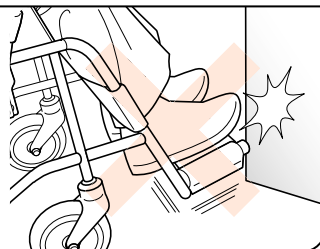


してはいけない

介助者の方へ

注意

●移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。ケガの原因となります。



していただく

警告

●フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。ケガや転倒・転落事故の原因となります。

していただく

警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。

してはいけない

警告

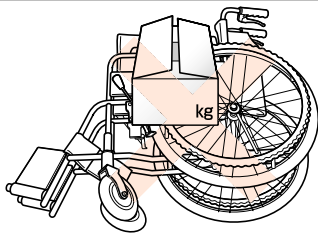
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。

してはいけない

注意

- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。

重みで車輪フレームが曲がったりして故障の原因になります。



してはいけない

メンテナンス

- 車いすを快適に長くご使用いただくためにメンテナンスを行ってください。

- * 適切な工具で、部品を損傷しないように作業してください。
- * 使用部品は、マツナガ純正部品を使用し、分解した部品は、順序良く整理して汚れを落とし、元通りに組み立ててください。
- * 作業に不安のあるときは、販売店にご相談ください。

点検

点 検	整 備
各部のゆるみ、ずれ、ねじれ、傷、破損はないか	異常があれば修正して元通りにする。 程度によっては、販売店に相談して交換する。
タイヤの亀裂、損傷、摩耗はないか	使用限度を超えたものは、交換する。
タイヤの空気は適正であるか	空気を入れる。 適正タイヤ空気圧 ・22×1、24×1……………700kPa (7.0kgf/cm ²)
シートの破損、糸切れはないか	使用限度を超えたものは、交換する。

- * 点検後、試乗して確認し、異音、違和感のある場合は、再度調整してください。

お手入れ方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧は、最適タイヤ空気圧を保ってください。
空気圧が少ないときは、補充してください。
- * オプションタイヤを使用の場合は、タイヤに記載の空気圧を保ってください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- ブレーキの効き具合

■表面の汚れは、柔らかい布で砂やホコリを排除した後、油汚れを石油系クリーナーで拭き取ってください。なお、塗膜のつや出しには自動車用ワックスなど、シリコン系ポリッシャーのご使用をおすすめします。(研磨剤の入っていないものをご使用ください。研磨剤が入っていると塗膜を傷つけます。)

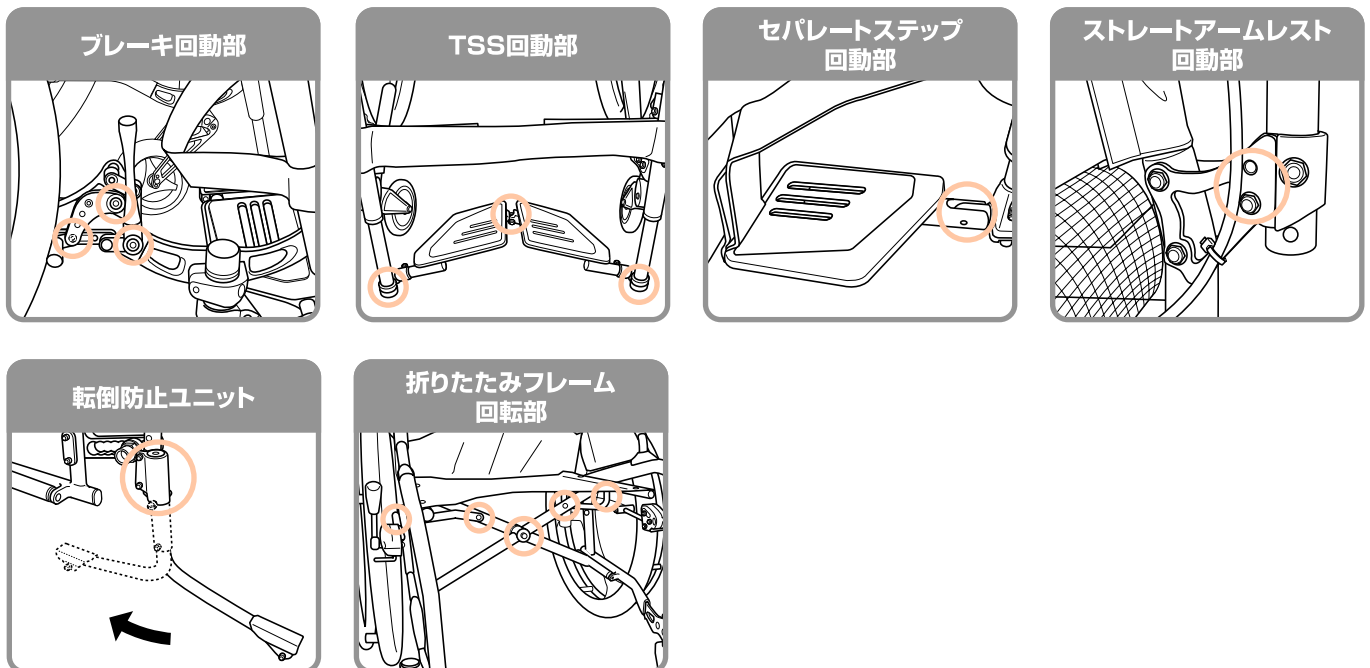
注意

- 有機溶剤 (MEK、アセトン、トリクロロエチレン、塩化メチレン、トルエン、キシレンなど) を含んだ、油汚れ取りは使用しないでください。塗膜のつやが消えることがあります。

してはいけない

グリスを塗布する箇所

●次の箇所には、定期的にグリスを塗布してください。



交換部品

●車いすを快適にご使用いただくためにご利用ください。なお、作業に不安のあるときは、販売店にご相談ください。

部 品	機 種	サイズ・タイプ	仕 様
キャスト	全機種	3インチ	樹脂ホイール、ウレタン
		4インチ	樹脂ホイール、ゴム アルミホイール、ゴム
		5インチ	樹脂ホイール、ゴム
フットサポート	全機種	T.S.SⅢ	左右連結プレート式、プレート角度調整式
		セパレートフットサポート	左右独立プレート式、プレート角度調整式
		アジャストフットサポート	左右独立プレート式、 プレート角度・前後位置調整式
着脱車輪	全機種	ワイヤースポーク(黒)	22×1 25-501
			24×1 25-540
		3P.actカーボンホイール	22×1 25-501(黒・赤) 24×1 25-540(黒・赤)
ハンドリム	全機種	アルミ製リング	φ19、爪間隔(5・10・15・20・25)mm
		塩化ビニルコーティングリング	φ22、爪間隔(5・10・15・20・25)mm
ブレーキ	全機種	Mタックル	チタン製レバー、レバー長(75・105)mm
		FBタックル	アルミ製レバー、レバー長85mm 延長レバー長+(50・100・150)mm
シート	CROSS LINE	デラックスシート	ポリエステルニット、ストレッチ、パット付
	SYNERGY, AIRNESS	ホールディングシート	ポリエステルニット
	α、β	3Dホールディングシート	ポリエステル立体メッシュ、パット付

もしこんなトラブルが発生したときは

●車いすを使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に、下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
タイヤの空気を入れてもすぐに抜ける	タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	ムシゴムは劣化していませんか	ムシゴムを交換してください
走行操作が重い	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	駆動輪・キャスト輪(前輪)に、毛髪、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	キャスト輪(前輪)が片減りしていませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	タイヤは摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキの動きがかたい		回動部にグリスを塗布してください
駆動輪が抜けにくい	ブレーキがかかった状態になっていませんか	ブレーキを解除してください
車いすがスムーズに折りたためない動きがかたくなっていませんか	折りたたもうとしたとき、T.S.SⅢの動きがかたくなっていませんか	回動部にグリスを塗布してください

寸法表

CROSS LINE 仕様諸言

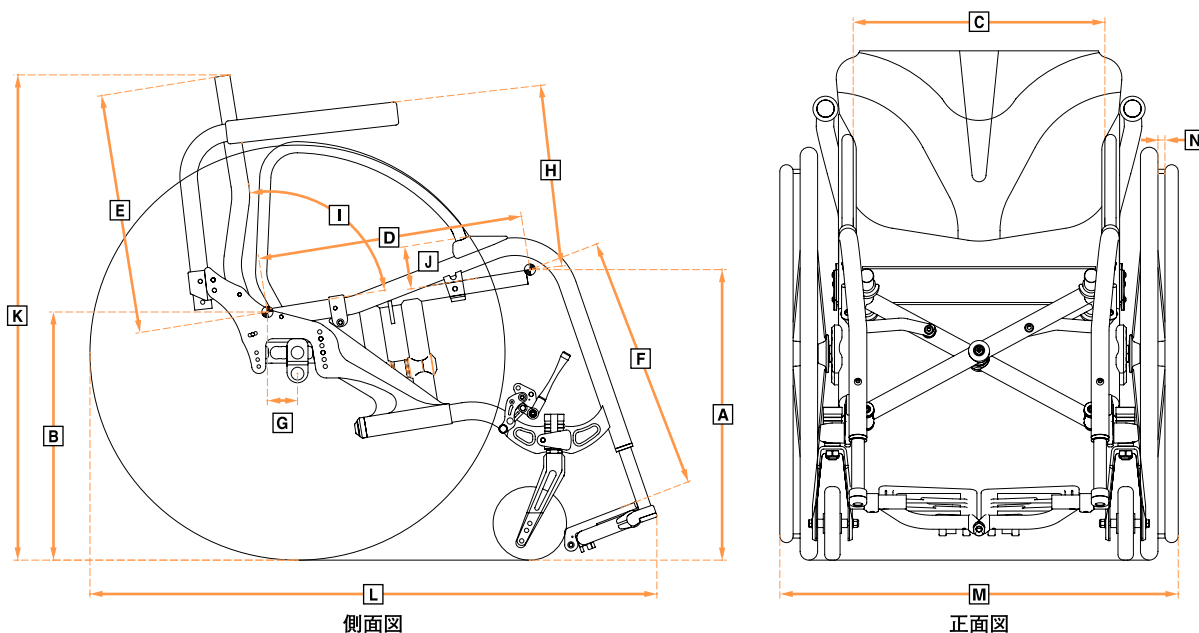
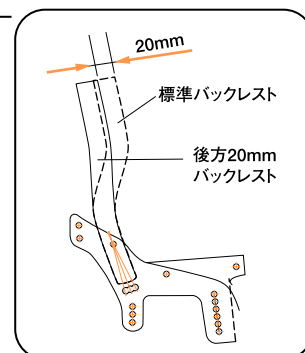
(単位：mm)

A	前座高 ※1	キャストサイズ	前座高ショートフォーク	前座高ロングフォーク	前座高フログレックスフォーク
		3インチ	375 ~ 415 5mmピッチ可変	415 ~ 455 5mmピッチ可変	415 ~ 450 5mmピッチ可変
		4インチ	390 ~ 430 5mmピッチ可変	415 ~ 465 5mmピッチ可変	415 ~ 465 5mmピッチ可変
	5インチ ※2	420 ~ 440 5mmピッチ可変	430 ~ 480 5mmピッチ可変	440 ~ 475 5mmピッチ可変	
B	後座高	タイヤサイズ	CL-R アジャスタブルホール	CL-X サスペンションユニット	
		24×1 25-540 (ブロック)	355 ~ 405 10mmピッチ可変	365 ~ 395 10mmピッチ可変	
		24×1 32-540 (高圧)	365 ~ 415 10mmピッチ可変	375 ~ 405 10mmピッチ可変	
		22×1 25-501 (高圧)	340 ~ 390 10mmピッチ可変	350 ~ 380 10mmピッチ可変	
	22×1 25-501 (スノー)	340 ~ 390 10mmピッチ可変	355 ~ 385 10mmピッチ可変		
C	シート幅	300・320・340・360・380・400・420 から選択			
D	シート奥行	340・360・380・400・420 から選択			
E	背シート高	背シート高ロー	背シート高ミディアム	背シート高ハイ	
		300・310・320・330・340 可変	340・350・360・370・380 可変	380・390・400・410・420 可変	
F	フットサポート長 ※3	330・345・360・375・390・405・420・435 15mmピッチ可変			
G	車軸位置	CL-R アジャスタブルホール		CL-X サスペンションユニット	
		背もたれタイプ/標準	9・18・27・36・45 可変	背もたれタイプ/標準	40 固定
		背もたれタイプ/後方 20mm	29・38・47・56・64 可変	背もたれタイプ/後方 20mm	60 固定
H	アームサポート高 ※4	265・275・285・295 可変			
I	バックサポート角度	86°・90°・94° 可変			
J	プッシュアップユニット	ショート 65 ロング 76			
K	全高 ※5	695			
L	全長 ※5	ショート 798 ロング 837			
M	全幅 ※5	573			
N	ハンドリム間隔	5・10・15・20			
O	キャンバー	CL-R アクスルブラケット		CL-X サスペンションユニット	
		0°・2° 可変 ※6		選択不可	
	重量	10.5 kg			

備考

- ※1 座奥行寸法380mm設定の寸法です。
- ※2 ショートフォーク・キャスト5インチの場合、前後座高の差が60mm未満ではT.S.SⅢを設定できませんので、セパレートフットサポートでの対応になります。
- ※3 前座高により長さが確保できない場合があります。
- ※4 ホイールサイズ・後座高により設定できない場合があります。
- ※5 次の仕様を元に算出しております。
後座高355mm/シート幅360mm/背シート高(ミディアム) 340mm/フットサポート長370mm/ホイール3P.ACT 25-540(590mm)/車軸位置40mm/ハンドリム間隔10mm/キャストフォークロング/キャストサイズ樹脂105mm/フットサポートTSS/Mタックル75mm/その他オプション無し
- ※6 フレーム角度が8°~10°、前座高・後座高の差が50mm~70mmの時に完全対応となります。それ以外の設定の場合、キャンバーのトーイン・アウトに若干の狂いが生じる場合がございます。詳しくは販売代理店・当社スタッフまで問い合わせください。

※基本前後差は、60mmです。



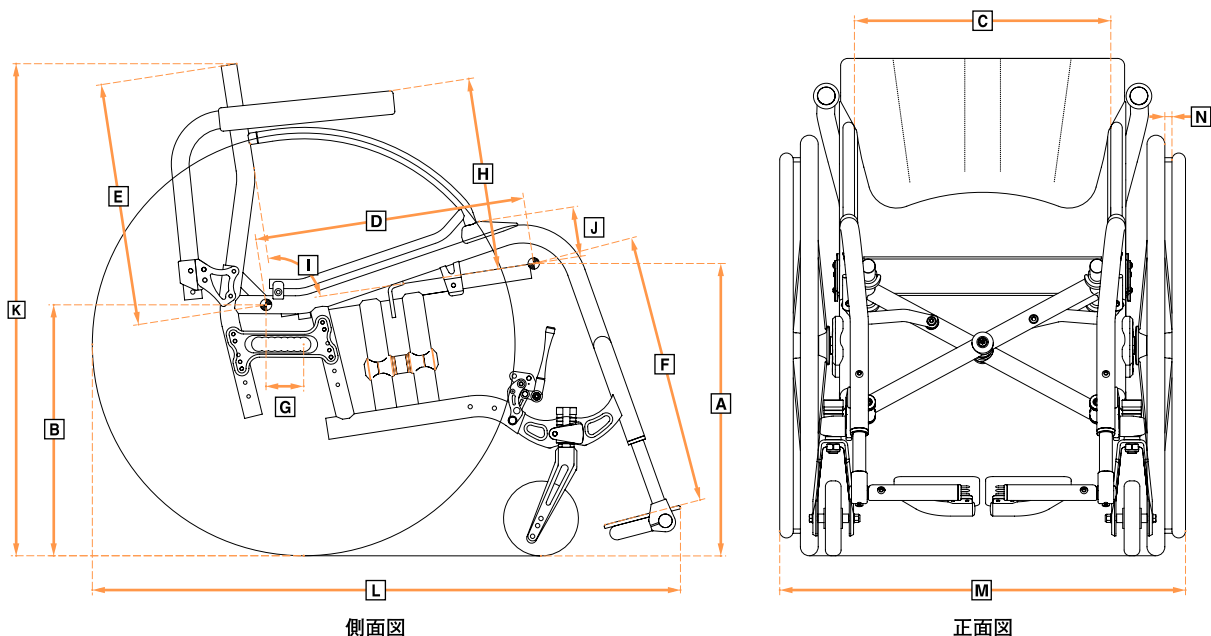
SYNERGY 仕様諸言

(単位: mm)

		キャストサイズ	前座高ショートフォーク	前座高ロングフォーク	前座高フログレックスフォーク
A	前座高 ※1	3インチ	365 ~ 400 5mmピッチ可変	400 ~ 440 5mmピッチ可変	400 ~ 440 5mmピッチ可変
		4インチ	380 ~ 415 5mmピッチ可変	405 ~ 455 5mmピッチ可変	405 ~ 455 5mmピッチ可変
		5インチ ※2	405 ~ 430 5mmピッチ可変	420 ~ 470 5mmピッチ可変	430 ~ 465 5mmピッチ可変
B	後座高	タイヤサイズ			
		24×1 32-540 (ブロック)	360・370・380・390・400・410 10mmピッチ可変		
		24×1 25-540 (高圧)	350・360・370・380・390・400 10mmピッチ可変		
		22×1 25-501 (高圧)	335・345・355・365・375・385 10mmピッチ可変		
		22×1 25-501 (スノー)	340・350・360・370・380・390 10mmピッチ可変		
C	シート幅	300・320・340・360・380・400・420 から選択			
D	シート奥行	340・360・380・400・420 から選択			
E	背シート高	背シート高ロー	背シート高ミディアム		背シート高ハイ
		300・310・320・330・340 可変	340・350・360・370・380 可変		380・390・400・410・420 可変
F	フットサポート長 ※3	330・345・360・375・390・405・420・435 15mmピッチ可変			
G	車軸位置	0・9・18・27・36・45・54・63 可変			
H	アームサポート高 ※4	270・280・290・300 可変			
I	バックサポート角度	90°			
J	プッシュアップユニット	ショート 65 ロング 76			
K	全高 ※5	700			
L	全長 ※5	ショート 821 ロング 860			
M	全幅 ※5	573			
N	ハンドリム間隔	5・10・15・20			
O	キャンバー	2° 選択可			
	重量	10.5 kg			

備考

- ※1 座奥行寸法380mm設定の寸法です。
 - ※2 ショートフォーク・キャスト5インチの場合、前後座高の差が60mm未満ではT.S.IIIを設定できませんので、セパレートフットサポートでの対応になります。
 - ※3 前座高により長さが確保できない場合があります。
 - ※4 ホイールサイズ 後座高により設定できない場合があります。
 - ※5 次の仕様を元に算出しております。
後座高350mm/シート幅360mm/背シート高(ミディアム)340mm/フットサポート長365mm/ホイール3P.ACT 25-540(590mm)/車軸位置40mm/ハンドリム間隔10mm/キャストフォークロング/キャストサイズ樹脂105mm/フットサポートセパレートステップ/Mタックル75mm/その他オプション無し
- ※基本前後差は、60mmです。



AIRNESS 仕様諸言

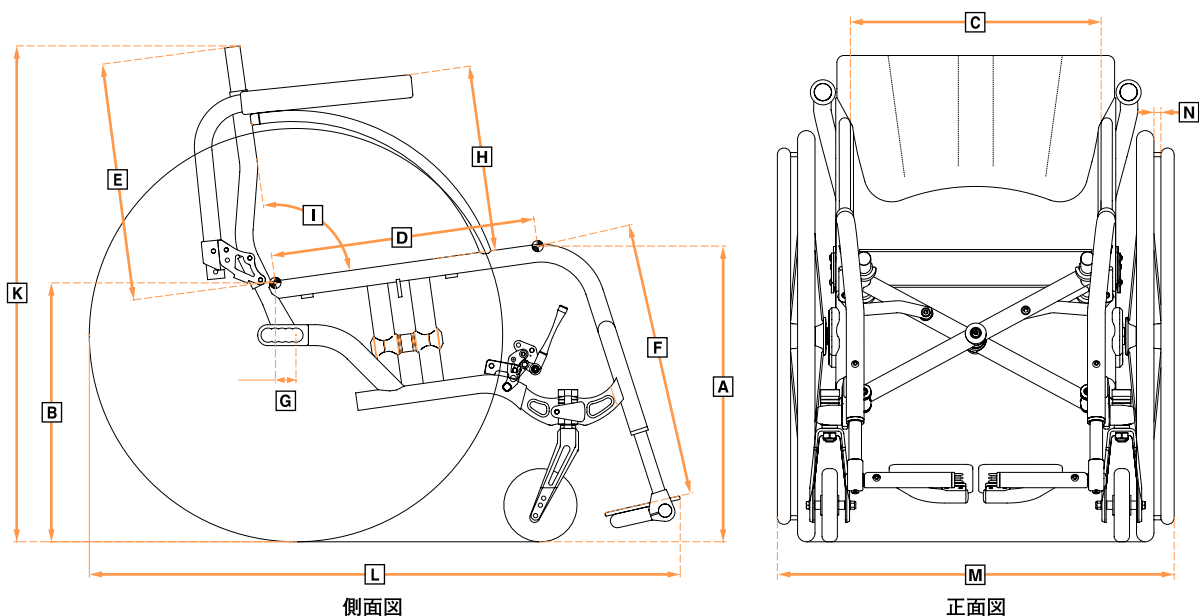
(単位：mm)

A	前座高 ※1	キャストサイズ	前座高ショートフォーク	前座高ロングフォーク	前座高プログレックスフォーク
		3インチ	370 ~ 405 5mmピッチ可変	405 ~ 445 5mmピッチ可変	405 ~ 445 5mmピッチ可変
	4インチ	385 ~ 420 5mmピッチ可変	410 ~ 460 5mmピッチ可変	415 ~ 455 5mmピッチ可変	
	5インチ ※2	410 ~ 435 5mmピッチ可変	425 ~ 475 5mmピッチ可変	435 ~ 470 5mmピッチ可変	
B	後座高	タイヤサイズ			
		24×1 32-540 (ブロック)		350・360・370・380・390・400	から選択
		24×1 25-540 (高圧)		360・370・380・390・400・410	から選択
		22×1 25-501 (高圧)		335・345・355・365・375・385	から選択
	22×1 25-501 (スノー)		340・350・360・370・380・390	から選択	
C	シート幅	300・320・340・360・380・400・420 から選択			
D	シート奥行	340・360・380・400・420 から選択			
E	背シート高	背シート高ロー	背シート高ミディアム	背シート高ハイ	
		300・310・320・330・340 可変	340・350・360・370・380 可変	380・390・400・410・420 可変	
F	フットサポート長 ※3	330・345・360・375・390・405・420・435 15mmピッチ可変			
G	車軸位置	0・10・20・30・40 可変			
H	アームサポート高 ※4	270・280・290・300 可変			
I	バックサポート角度	90°			
K	全高	700			
L	全長 ※5	ショート 833 ロング 874			
M	全幅 ※5	573			
N	ハンドリム間隔 ※5	5・10・15・20			
O	キャンバー	2° 選択可			
	重量	9.7 kg			

備考

- ※1 座奥行寸法380mm設定の寸法です。
- ※2 ショートフォーク・キャスト5インチの場合、前後座高の差が60mm未満ではT.S.SⅢを設定できませんので、セパレートフットサポートでの対応になります。
- ※3 前座高により長さが確保できない場合があります。
- ※4 ホイールサイズ 後座高により設定できない場合があります。
- ※5 次の仕様を元に算出しております。
後座高360mm/シート幅360mm/背シート高(ミディアム)340mm/フットサポート長360mm/ホイール3P.ACT 25-540(590mm)/車軸位置40mm/ハンドリム間隔10mm/キャストフォークロング/キャストサイズ樹脂105mm/フットサポートセパレートステップ/Mタックル75mm/その他オプション無し

※基本前後差は、60mmです。



α・β 仕様諸言

(単位: mm)

A	前座高 ※1	キャストサイズ	前座高ショートヨーク	前座高ロングヨーク	前座高フログレックスヨーク
		3インチ	400	430	425
		4インチ	400・410 可変	415・425・440 可変	415・425・435 可変
		5インチ	420	435・450 可変	435・445 可変
B	後座高	タイヤサイズ			
		24×1	32-540 (ブロック)		365・385 可変
		24×1	25-540 (高圧)		355・375 可変
		22×1	25-501 (高圧)		340・360 可変
		22×1	25-501 (スノー)		345・365 可変
C	シート幅	300・320・340・360・380・400・420 から選択			
D	シート奥行	340・360・380・400・420 から選択			
E	背シート高	280～420 20mmピッチ から選択			
F	フットレスト長	330・345・360・375・390・405・420・435 15mmピッチ可変			
G	車軸位置 ※2	後座高 (ロー)		後座高 (ハイ)	
		25・35 可変		30・42.5・55 可変	
H	アームレスト高 ※3	260・270・280 可変			
I	バックレスト角度	90°			
K	全高	688			
L	全長 ※4	ショート 805		ロング 845	
M	全幅 ※4	535			
N	ハンドリム間隔 ※4	5・10・15・20			
O	キャンバー	2° 選択可			
	重量	10.5 kg			

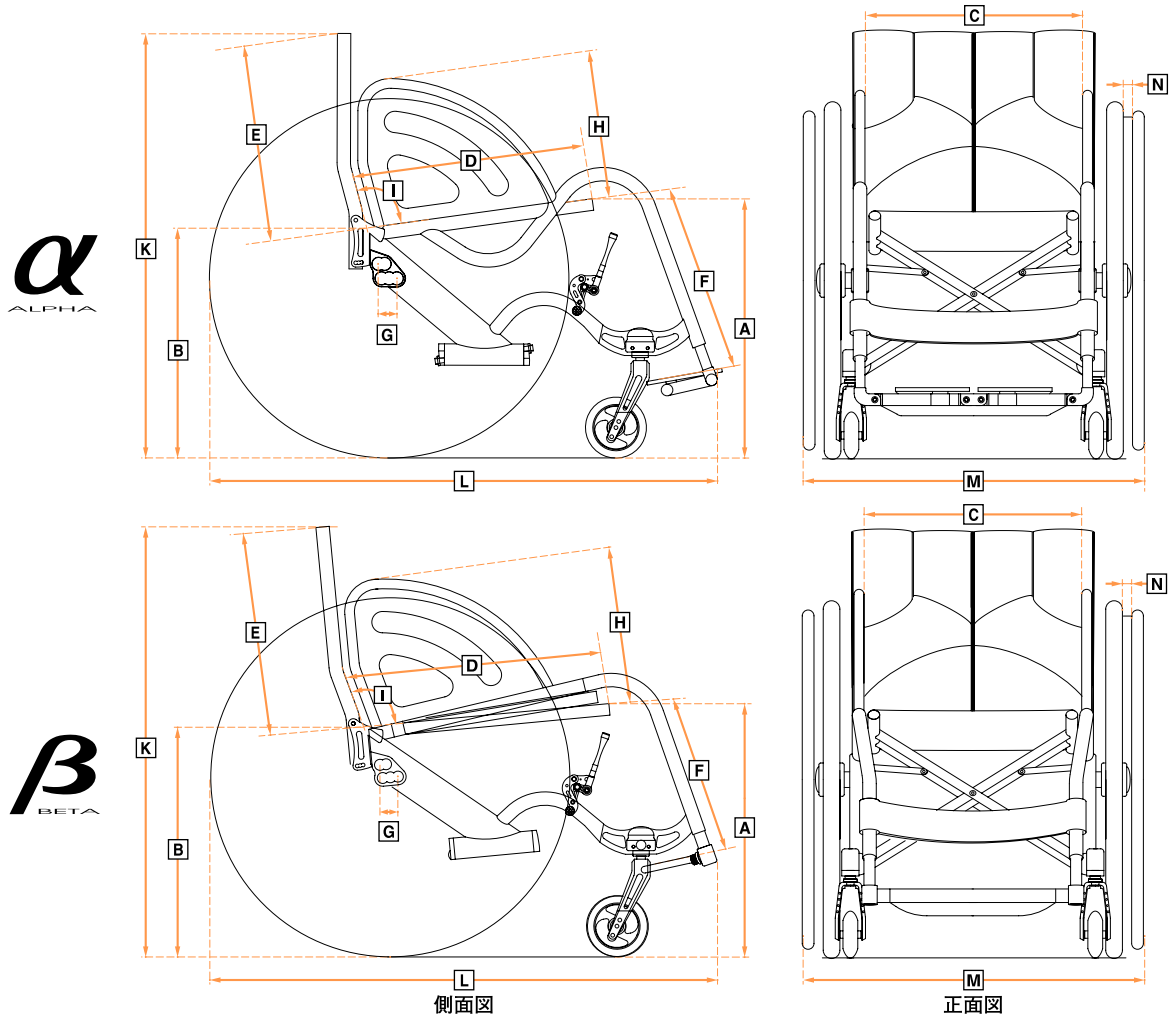
備考 ※1 座奥行寸法 380mm 設定の寸法です。

※2 前座高により長さが確保できない場合があります。

※3 ホイールサイズ 後座高により設定できない場合があります。

※4 次の仕様を元に算出しております。

後座高355mm/シート幅340mm/背シート高340mm/フットサポート長380mm/ホイール 3P.ACT 25-540 (590mm) 車軸位置35mm/ハンドリム間隔10mm/キャストフォークロング/キャストサイズ樹脂105mm/フットサポートTSS/Mタックル75mm/その他オプション無し



保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ
- 高温室になる場所 ●炎天下になる場所

保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
 1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法・ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
 4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
 5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または(株)松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。



株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL 0584-35-1180(代) FAX 0584-35-1270
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>